明治三十五年八月二十四日發行

(明治二十年十一月本會創立)

婦人衛生雜誌

第百五拾柒號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回十五日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會發行

婦人衛生雜誌

第百五十三號　目次

本會講演

●鼻の話　醫學士 久保猪之吉（一）

高崎支會講演

●食餌衛生に就て（前々號の續）　莊司森之助（一九）

寄書

●肺病豫防掃除の方法　醫學士 竹中成憲（二四）

衛生雜話

●前置き　醫學士 久保猪之吉（二八）

●臺所衛生●食器の掃除●箒の話

質疑欄　Dr. H. Y.（三七）

●呼吸に關すること●眼科に關する硝子体溷濁の件●眼病角膜炎のこと

衛生時事　醫學士 久保猪之吉（四一）

●「コレラ」は恐るべきか●「コレラ」にかゝつた人々●飲食の合併は見合すべし

看護法　醫學士 米山彦郎（四五）

●普通看護法

●消毒劑及防腐劑製法（續き）

中外彙報

●コレラ豫防液注射の實驗●內務省の豫防液接種●催眠術と兒童の嬌弊●一家五人の啞●コレラ實驗談中の一片●吐瀉病救急處置●コレラ豫防液の缺乏●肺結核病黴菌患者取締●はき物●コレラと赤痢●コレラ病患者最近の統計●傳染病と飲料水●爪嚙病●駒込傳染病院近況

食物調理法

●內外賀川料理（五二）

●よし野煮●滋鉄●たゝき●茄子の鶏子燒

救急處置

●前置き（五三）

大日本婦人衛生會記事

●會告●會員よりの詠草●茨城支會報告●高崎支會報告●本會及支會入會者●弔詞●新刊書紹介●交換寄送雜誌轉居等

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜はしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人胥ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡さんとす茲に本會旨趣の梗槪を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月　　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治卅二年十二月改正）

●第一章　目的第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二章　名稱位置第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三章　會員第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず●第四章　役員第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第五章　集會第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會し須要の事項を評議するものとす第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるへきこと）第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第六章　會計第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし●第七章　支會第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と牴觸せざる樣起案すべし第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すへきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第八章　雜件第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し每會に於ける衛生上の講義演說談話等の筆記及內外彙報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同じ第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尙

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし(郵券送一割増)第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局(牛込局宛)振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非されば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地六

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　小松若宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子
(いろは順)
幹事　鳩山春子
仝　羽田三絲子
仝　穗積歌子
仝　岡田徳子
仝　高木かう子
仝　松平芳子
仝　三浦教子
評議員　石川さだ子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　男爵夫人　西部子
仝　德富靜子
仝　緒方悅子
仝　男爵夫人　川口直子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　吉武鎌枝子
仝　子爵夫人　田中伊代子
仝　高橋孝子
仝　丹波良子
仝　男爵夫人　南部隈子
仝　小濱芳子
仝　岡山とし子
仝　山本多秋子
仝　子爵夫人　松前藤子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　馬渡玉子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　秋元宗子
仝　三宅藤子
仝　宮木榮子
仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇津宮、茨城、高崎

本會特別賛成員
(并に本會に於て講演せられし諸氏)

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
地方視學官　色川圀士君
醫學士　伊東祐彦君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
[illegible]　岩井禎造君
新潟　池原康造君
同　池田潔君
前文部大臣　濱尾新君
醫學博士　濱田玄逵君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原彌四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
衛生局長　長谷川泰君
新潟　長谷川一辭君
小兒科　小原賴之君
醫學士　林春雄君

醫學博士　緒方正規君
步兵少佐　堀内文次郎君
醫學博士　土肥慶三君
醫學博士　岡田和一郎君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　加藤弘之君
ドクトル　加藤照磨君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　櫻村清德君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅量君
ドクトル　金杉英五郎君
醫學士　笠原光興君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齊君
醫學博士　高木兼寛君
法學博士　高木豊三君
醫學士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋良碩君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　坪井次郎君
醫學士　久保猪之吉君
醫學士　米山彦三君

醫學士　久保猪之吉君
三等軍醫正　星野保光君
一等軍醫　橫井忠直君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
中央衛生會長　長與專齋君
ドクトル　長與稱吉君
男爵　南部猶男君
藥學博士 理學博士　長井長義君
新潟　長井千尋君
醫學博士　中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松鍬三君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　山田鐵三君
大審院判事　馬屋原彰君
東京醫科大學醫學士長　山根正次君
岡山　山川卷二君
醫學士　丸茂文良君
衛生試驗所技手　丸山長四郎君
松山病院　松山棟菴君
ドクトル　小柴信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　布施正顯君
臺灣民政局長　後藤新平君
帝國大學教授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
文部書記官　寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寛君
ドクトル　新井古芳君
新潟　阿部玄四郎君

醫學士　米山彦三郎君
高崎醫會長　上谷余次君
産科婦人科　水原漸君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
ドクトル　朝倉文二君
ドクトル　朝山養六君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
醫學士　佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　榊順次郎君
醫學士　神保三郎君
醫學士　櫻井恒次郎君
醫學士　北村精造君
ドクトル　北川乙二郎君
醫學士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學士　三輪信太郎君
新潟　水野欽君
伯爵　土方久元君
醫學士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　須田卓樹君
ミス、ヒユース
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野傳君
醫學博士　奥秀三君
八王子　和田義質君

鼻咽疾のなき痴鈍の相



仝上



梅の為鼻を損せしもの



仝上義鼻を着けしもの



婦人衛生會雜誌第百五十參號
（明治三十五年八月二十日發行）

講演

鼻の話（本會講演）

醫學士 久保猪之吉述
佃速記事務所員速記

私は今日岡田博士の御夫人からお勸めに依りまして、自分の専門に關係して居る所の鼻と云ふことに就きまして、少し調べたことをお話致さうと思ひます。ソコで演題を、鼻の解剖とか生理とか云ふ、四角張つた問題に致すと云ふと、モウ其題を御覽になつたばかりで御退屈になるだらうと思ひましたからして、題だけは柔しいやうにと思ひまして「鼻の話」と云ふ極く平凡な題に致しました。併し私が是からお話することは此演題のやうに、通俗的には往きますまひ、或は専門の固苦しいことが混つて御退屈になることがあるかも知れないと思ひますからしてチヨツト其ことをお斷りして置きます。

今まで皆さん方は毎會丁度佛教の戒律に類して居るやうな衛生談を澤山お聞きになつて居るだらうと思ひますから、私は今日此鼻と云ふものが種々のことに關係して居るお話、即ち鼻と云ふことが日本の文學の上に於て、どう云ふ所に引用されてあるか、又美術家などが鼻を見るのに、どう云ふ標準を以て見るか、それから又鼻は吾々の生活に向つて、どれだけ必要な作用をして居るか、又鼻は生理的にどう云ふ作用をするかと云ふ、さう云ふ種々な點に就いて雜駁なお話をする積りでございますからして、少し衛生會の名には背くかも知れませぬ、けれども其點も亦お斷りして置きます。」

ソコで一番先きに私は此「ハナ」と云ふ日本の言葉に就いて少しお話して置かうと思ひます。それで日本の此「ハナ」と云ふ詞は、どう云ふ意味を持つて居るかと申しますと物の端の一番高く突出て居ると云ふ

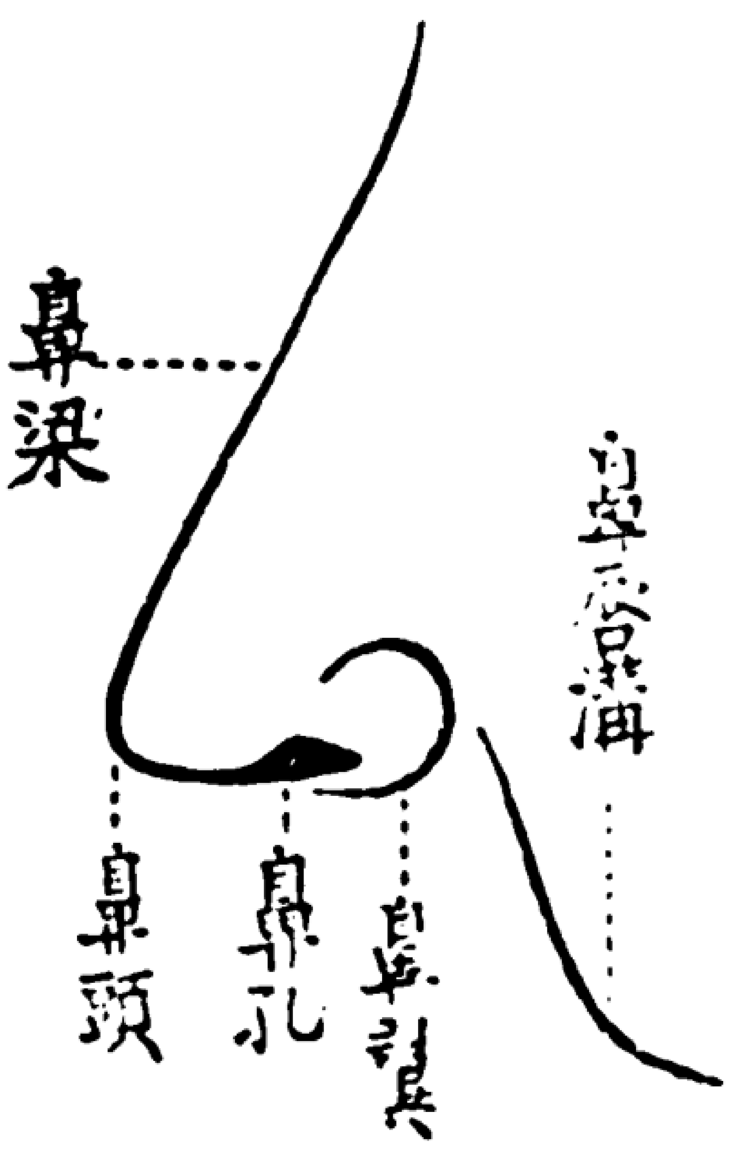
ことを意味して居るのであつて、即ち此鼻と云ふものは顏の眞中に一番高く突出して居ります。それならば植物の花と云ふものは之に關係して居るかと云ふのに、それも關係して居る。それはどう云ふ點で關係して居るかと云ふと、草木の花を見ても、いつでも一番先から咲き、一番端にあると云ふ意味で、人間の鼻と同じ語原を有つて居ります。それから又通常の詞で、物の初めのことを「ハナ」と云ふ「ハナカラ」と云ふことを申します、之も端と云ふことを意味して居る。それから極く卑近の例では下駄の「ハナ緒」……下駄のハナ緒が人間の鼻に似て居ると云ふのでなくして、矢張り是は一番端にあると云ふ意味です。それであるから「ハナヲ」——端にある緒と云ふ意味で、何れも端に高く出て居ると云ふことを意味して居る。是は日本ばかりでなくして、西洋の詞を調べましても皆「ハナ」と云ふ詞は、高く出て居る所を示して居る。西洋のことは略します。』

私の是からお話しやうと思ふこと、即ち醫者の方で鼻と云ふのは、どう云ふ所かと云ふと、此顏の中に突出て居る所ばかりを鼻とは言はない。日本の詞で鼻の中と、通常言つて居る部分が、醫者の目から見ますれば甚だ必要な部分である。それも吾々は鼻と名づけて居りますからして、ツマリ玆に二ツの區別がござります。即ち、第一には外に現れて居る鼻。それから、第二には中にある鼻。此内鼻、外鼻の二ツに別つて居ります。私は是から外鼻、内鼻と云ふことを以てお話しやうと思ひますが、時間が許すまいと思ひますから、主に種々の趣味を有つて居る外鼻、即ち、外に現れた所の鼻に就て少しお話致さうと思ひます。』

それで此外鼻と云ふことに於て最も必要なのは鼻の形と、鼻の釣合それから鼻の色澤——色澤と此三點が非常に必要な部分であります。それで、昔から人相學者、或は美貌學者、人類學者、さう云ふ人々からも此三點は注意されて居る。又彫刻家や繪畫家などからも、さう云ふ點に向つて注意されて居ります。

それであるから、容貌の上に於ても、此外鼻と云ふものが非常に必要な部分であります。通常此鼻と云ふものは、御存じの通り、顔の中央に突出て居て周圍には目や頬や或は唇等の部分を並べて居つて其平均を保つて居る。それで、鼻と云ふものは、顔の中では非常に必要な部分でござります。併し此鼻と云ふもの自身を取出して見ると、非常に恰好の悪い、見苦しいものでありますが、是が顔に附いて居ると、顔全躰の平均を取つて、顔に凹凸を附け、所謂曲線の配合を附けるから、之は一番肝腎な場處で、扇でたとえれば要です。若しも此鼻を毀して仕舞ふか、除けて仕舞ふと假定すれば、人間の顔は非常に見醜い者になる。さう云ふやうに、容貌學上肝腎な場處でございますからして、昔から畫家、彫刻家などの美術家は申すに及ばず、文學家も、人相家も、此鼻と云ふことに非常に注意して居つたもので、又お互に人が顔と顔を向合した時にも、鼻の形が一番先きに目に着く。それ故に中々大切な場處でござります。

夫で、今日鼻と云ふものに就きましてお話をするのに、此鼻の部分はどう云ふ部分から成立つて居るかと云ふことを、大凡お話して置かうと思ひます。一躰、鼻の中の名稱は日本では甚だ缺乏して居りますが、先づ鼻の略圖を書きませう。



斯う云ふやうに眉間の所から鼻の先まで通つて居る一番高い處、日本の言葉では鼻筋、或は鼻柱と謂つて居るが、是は醫者の方では鼻梁と申し、支那では頞と申して居ります。それから、此高くなつて居る所の一番終りの處を鼻頭と云ひ、支那では準と云ふ字を使つて居る。漢高祖隆準云々と云ふことなどがあります。それから、左右の膨れて居る處を通常、小鼻、吾々は鼻翼と申します。此鼻翼の下にある孔を鼻孔と云ひ、それから、鼻翼の左右に溝がありますが、此溝は人に依て發達して居る人と、發達して

居ない人とがあります。是は大變に必要なものでございます。さうして、是は鼻と唇の間にありますから鼻唇溝と申すのです。此鼻唇溝と云ふものは、醫者の方にも關係するし、美術にも關係いたしますから、チヨツトお話しやうと思ひます。此鼻唇溝と云ふのは、美術家が、人の顏を畫く時に、之を畫くのは通例であつて、之を畫かないと誠に見惡い顏になります。昔から人相本などには此溝が深く發達して居る人は快濶の氣性を有つて居り、此溝が失くなつて居る人は非常に痴鈍の相を有つて居ると云ふことを謂つてあります。今日皆さんの中にも其淺い方があるかも知れませぬが、併しそれは又病氣の方から來て此溝が失くなることがあります。其病氣は、私の方の專門の言葉で言ふと難かしいので、即ち病氣の名は腺増殖症と申して「ルッシユカ」氏扁桃腺の肥大したる小兒‥‥　併し是はお了り惡ければ止めても宜しいが、兎に角、溝が無くなツて、口が半分開いて、非常に見苦しい形になりまして、一見して其病氣のあることが分ります。今日私は寫眞を持つて參りましたからお目に懸けませう。(寫眞を示し說明す口繪參照)此婦人の顏を正面から見たのと横から見たのとあります。能くさう云ふ顏をした人に、吾々は出逢ふことがありますが、吾々は見たばかりて、直ぐその病氣があるナと云ふことが分ります。其位能く分るに就て、昔獨逸の博物館にあつた油畫、(油畫の寫を示す)是は獨逸の天子ですが、此人が其病氣に罹つて居つたと云ふことを、後世の人が其畫を見たばかりで判斷したと云ふことがありますが、之を御覽になると皆其口が前の方に出て居て、此溝が失くなツて居ります。それから、此鼻の下に溝がありますが、是は人中と云つて居ります。



それで此人中と云ふのに就いて、昔から傳說がございます。それは漢紀列傳と云ふ本に面白いことがあります、チヨツトそれを讀上げませう。

相書有レ言。人中長一寸壽百歳也。東方朔大咲曰。彭祖正八百歳。如此言則彭祖人中可長八寸。以之推彭祖面長一丈餘矣。

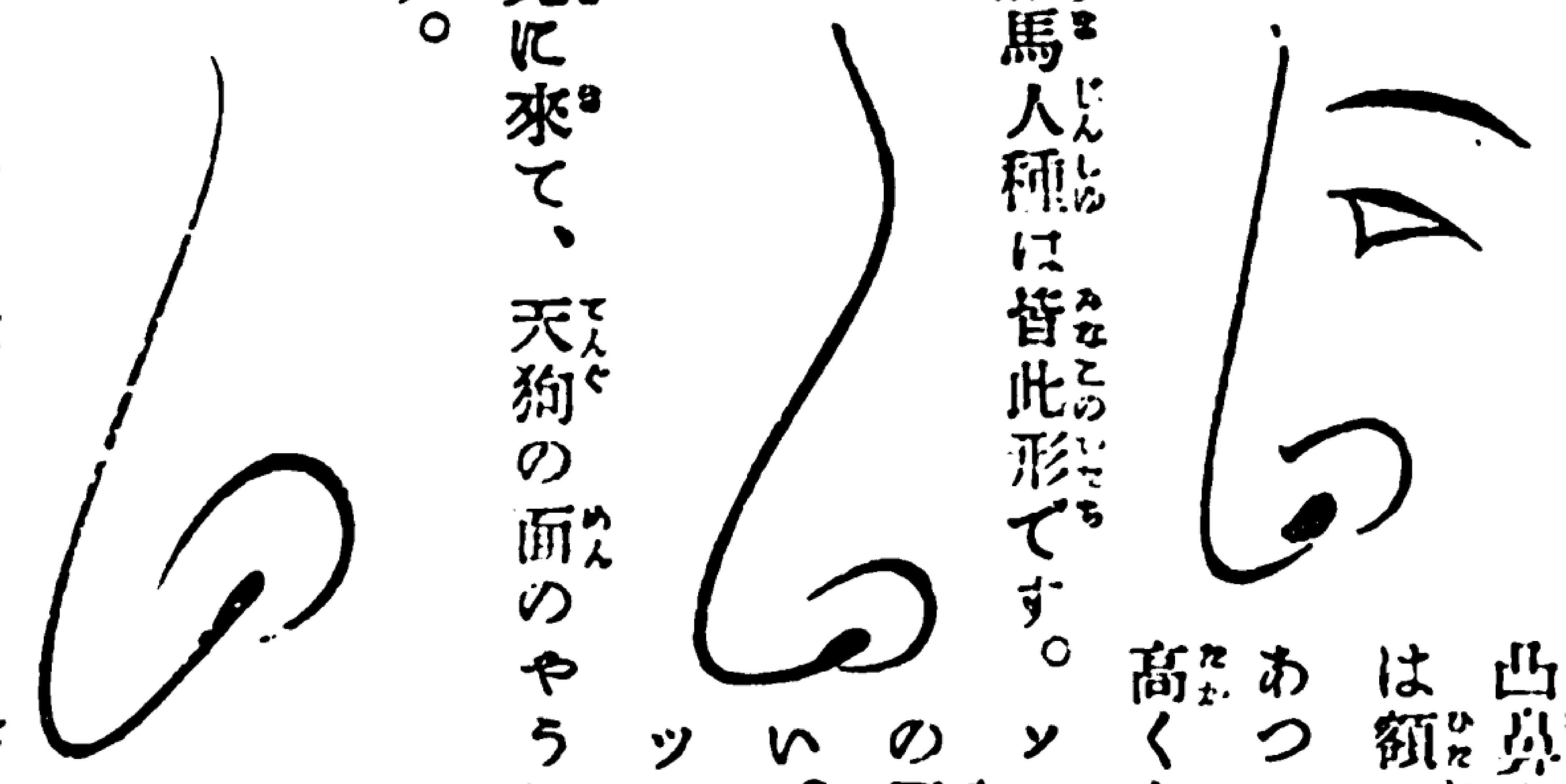
人中の長さが一寸なれば百歳生きることが出來ると云ふことが書いてあつて、東方朔が笑つて曰ふのに、ソンナラ彭祖——彭祖は昔の王樣です——それは八百歳であるから、人中の長さが八寸で、面の長さは一丈餘あるだらうと言つて大に笑つたと云ふことが書いてあります。さうして、それに三才圖會の中に註釋を施してあります。

按彭祖上古長壽人、或謂七百歳、然未詳何時人也、實以武内宿禰推之、而未聞其人中三寸也、但人中深而長者爲良耳、

斯樣に書いてあります是は傳說であつて意味を持つて居りませぬけれども、或は吾々がそれを解釋する程に學問が進んで居ないのかも知れませんが、今の所では此人中と云ふものが壽命に關係して居るとは思はれませぬ。唯容貌學上に於て、人中の長さが中位でなければ見惡い。長くなく、短くなく、さうして中庸が一番宜しい。

それから次には鼻の形です。美術家などが、どう云ふ鼻の形を以て自分の理想として居るかと云ふことを見ますと、それは申すまでもなく、希臘人の鼻の形が、總て西洋、又は日本の美術家の理想になつて居る形でございます。之が極く貴い鼻の形になつて居ります。其形はどう云ふのかと申すと、俗に云ふ、鼻筋の通つたもので、此額の高い處からして、鼻の先まで一直線になつて居る鼻で、横から見ると鼻が非常に長く見えるのでございます。昔の希臘時代の彫刻物などを見ると、皆鼻が眞直に出來て居る。夫故に鼻の形だけ見れば、直ぐに、是は希臘時代の彫刻品であると云ふことが分ります。即ち斯う云ふ風に額から一直線になつて居る。

是が希臘形の鼻です。さうして、之を直鼻と申すので、是が一番美術家の理想として居る鼻です。次に



羅馬人種は皆此形です。

凸鼻と云ふのが宜しい。それは額の所に、チヨツと凹みがあつて、さうして後は弓狀に高くなツて居る。ソコで是は羅馬時代の彫刻の圖です。(示圖)御覽下さい。それから、鼻の頭が尖ツたのがあります。ズツト先に來て、天狗の面のやうになつて居るのがあります。

是は、日本で鷲鼻と言つて居りますか、斯う云ふ鼻を有つて居る人は、非常に鋭氣に富んで居り、進取的であると云ふことを昔から言つて居る。鼻の形で以て、昔から人相家が人の性質を占つたもので、一軆に鼻の尖つた人は勇氣に富んで居り豪慢である。非常に細長い人は大變輕率であると云ふことを言つてある日本でもよくいひましよう。傲慢に威張る事を鼻を高くするといひます。あの男は天狗になるといふのも鼻にかけるといふのも、ミンナ鼻を高くする事です。即ち鼻の高いのと傲慢といふことを關係させてをるのは日本でも同じです。是が第二類の鼻で、第三類のは低いので、是は美術的てはない。



斯う云ふのです。餘り見好くはない。大變潰れて居ります。斯う云ふ形は、美術家が使ふ時には、極く下等の社會を表はす時分に斯う云ふ形を使ひ、それから又惡い事をする人は斯う云ふやうに鼻の形が低くなると云ふことを言つて居ります。其中に日本で獅子ツ鼻と云つて居るのがあります。其他、吾々の方では低い鼻を低鼻と云ひ、又平たいのを平鼻と云ひます。平鼻と云ふのは丁度福女の面のやうに兩方の頰と鼻の高さが同じであるので非常に見醜い鼻です。此等も第三類でございます。ソコで、吾々日本人は、どの部類に入つて

居るかと云ふと、西洋人の統計に依ると、吾々は悲しいことには、第三類に數へられて居ります。西洋人は結論するのに、此鼻の高いと低いとは文明の度に關係する。野蠻人種ほど鼻が低いと言つて居る。併ながら吾々日本人の鼻を能く見ますと云ふと、必ずしも第三類のみではない。第二類に屬して居るものが澤山あります。又稀には、第一類の鼻を有つて居る。即ち希臘形の鼻を有つて居る人もある。』一体に此鼻の高いのを望むことは、日本でも同じことでわります。其證據には日本の美術品が、或る寺などに遺つて居るのを見ると、大變尊い姿を畫いたものとか、或は極く位のある貴人の鼻は、大變高く畫いてある。又親が子供を育てます時分には、皆其鼻を摘んで「高くなるやうに、高くなるやうに」と云ふことを能く遣ります。吾々も皆經驗があるのでございますが、兎に角、鼻の高いのを望むと云ふことは、一般に同じでわつて、又高いほど宜いと云ふ考も爭はれないやうでございます。

ソコで殊に鼻の低いのを卑しむと云ふのは、人間として愧づべき所の病からして、鼻が低くなるのもありますから、其邊から結付いて、さう云ふことが出て來たのでありませう。デ日本では鼻のことは、法律上などに關係しないけれども、西洋で、昔の「ヘブリユー」の時代には、僧官になるには鼻の低い人はなれない。鼻の高い者から僧さんを採ると云ふことになつて居つて、非常に鼻の形がやかましかつた。又羅馬の英雄の「シセロー」と云ふ人が言つた言葉に「低い鼻を有つて居るのは愧づべき行をした所の目印である」と言つたことがありますが、其頃は羅馬で風俗が紊れて居たと云ふことが分ります。又此鼻を大切にすると云ふことは「エスキモー」人種が互に會つた時に禮をするのに、鼻の頭を摩るのが禮でございます。又接吻を禮とする或種類の人種は、鼻の頭を接吻すると云ふことが敬禮になつて居る。さう云ふ風俗に、鼻を大切にして居ると云ふことは、何處の人種にもございます。又印度の人種で、

土人が鼻の頭に、鼻輪と云つて、寶石などの飾物を下げて、さうして客に應對するのがあります。私は茲に畫を持つて來ましたが、此印度の土人は、鼻に、寶石の鼻輪を下げて飾つて居ります。」

次に申上げますのは、鼻の頭の光澤、——色艶ですが、此鼻の色艶と云ふものは、容貌上非常に關係して居ります、鼻の頭になつて居る所は、解剖學上で調べますと、大變に血管、即ち血の管に富んで居る場處て、血液が澤山入つて居るから、何時でも、少し赤い色をして居ります。其上に、此處には脂を造る所の腺、——專門の言葉はお解りにならないかも知れませぬが、脂を分泌する脂腺と云ふのが、鼻の近傍に於て大變發達して居る。それで「ステール」と云ふ人が書いた本で見ますると云ふと、鼻の頭に脂腺が開いて居る口は、二「ミリ」あると云ふことでございます。是は吾々の肉眼でも立派に見える所の大きさてす。それは皆さんも御承知の通り、吾々が夏の暑い時、埃の立つ中を歩いて、互に出逢つて挨拶などして居る時に、鼻の頭に黑い點が見えますが、アレは即ち脂を分泌する口に、埃や煤の附いた爲めに斯樣に見えるのでございます。それで昔から此鼻の頭は、脂を澤山出すと云ふことは、誰でも知つて居ることでございます。茲に一ツ面白い話がありますが、それは有名な方丈記を書いた鴨長明と云ふ人が書いた無名抄と云ふ本、それを見た方は御承知でせうが、其中に歌があります。

俊惠云、顯輔卿歌に

　あふとみて現のかひはなけれども、はかなき夢ぞ命なりける

此歌を俊賴朝臣感じて云ふ「夢の樂みがきして鼻嚔ひける御歌也。世の常の人ならば、現のかひはなけれども、はかなき夢ぞうれしかりけると、よまれましたがゝくはよまむぞ」とぞ、よめられける云々

斯う云ふやうに、文學上にも鼻の嚔と云ふことは引用されて居る位に知れて居ります。」

それで今までお話いたしたやうに、此外鼻と申すものは、種々の點から最も必要な部分でありまして、又鼻の形と云ふものは、皆高いのを好み、且つ恰好の宜いのを好み、低いのを厭ふ、さう云ふことになつて居りますからして、昔から此大切な鼻を斷つて刑罰としたことがあります。是は人の容貌を損ふのに、非常な力あるもので、非常に殘酷な刑罰でございます。支那では五刑と申して、鼻を切つたり、耳を切つたりする所の五ツの刑罰がある。其五刑の中の一ツとして、此劓と云ふ刑がありました。又西洋のことを調べますと、第六世の羅馬法王――羅馬法王は命令した。今までは盜をした人の額に燒版を押したが、それを改めて、今度は盜をした人に、其目印として鼻を切落せと云ふ命令を出したことがございます。又印度に於ても劓の刑が廣く行はれて、今でも此鼻を切ると云ふことがあるさうです。それは此前に工科大學の留學生となつて來た「クルカルニー」と云ふ土人がありましたが、それに聞くと、若し惡い事をして惡まれると、夜中に、大勢の人が來て鼻を切つて仕舞ひ、直に目印が附くやうにする。さう云ふことがあるさうです。又希臘や埃及邊りにも同じく劓の刑があつた。夫故に印度、伊太利などの中古の時代には、鼻のない人が澤山出來まして、ソコで初めて鼻を造る術――造鼻術と云ふものが、此等の刑罰を行つた國々から流行て來ました。「タグリアコッチー」と云ふ伊太利人が、初めて鼻を造ることを發明して、其人は、今で言へば、博士の學位を貰つたが、今でも其人の像が出來て遺つて居ります。其鼻の造方は本に書いてありますが、餘程面白い。それで支那邊りになりますと、婦人が自分の貞操を立てるために、自分で鼻を切つたと云ふことが、能く支那の書物にありますが、兎に角鼻を切ると云ふことは、皆嫌がる所の非常な苦痛です。」

ソコて、さう云ふやうに人爲的に失くなることもありますけれども、又自然的に――惡く言へば神の罰として鼻の缺損くなる病氣があります。又鼻の形が

變るのもあります。其鼻の形が變ると云ふのは鼻の內に鼻茸などが出來ると內より押上げられて非常に幅が廣くなつて見惡くなることもある。此書は鼻茸が出來て居る所の七十一歲のお爺さんです。(寫眞を示す)兩方の鼻を較べて御覽なさい、それから又此他色々の質の惡い腫物が出來ると、此婦人のやうに眼まで潰れて仕舞つて、鼻が非常に大きくなる。(寫眞を示す)さう云ふ風に病氣で形が變るのがありますが、一体此鼻の病氣で通常多いのは、非常に猥りがましい事をやつた罪として來る所の梅毒――梅毒と云ふ穢らはしい病氣から來る所の鼻の變形は非常に醜いもので。其爲めに鼻の中隔即ち鼻柱が全く取れて、丁度人中の處に附くやうになつて居る人がある、さう云ふのは鸚鵡の鼻に似て居るから鸚鵡鼻と云ふ名が附いて居る(寫眞を示す)此寫眞を御覽なさい、是は鉤で以て鼻の頭を引上げて、寫眞を撮つたのです。其他又鼻の全部が失くなッて仕舞ふことがありますが、玆にお廻しするのは(示寫眞)是は惡い職業を遣つて居た人で、不幸にして其病氣に罹つて鼻が全く取れて仕舞つて、蠟細工の鼻を附けて居るのでございます。此附鼻を義鼻と申しますが、義鼻と云ふものは、蠟で造るのが一番上手に出來るさうです。(寫眞を示す)此寫眞は義鼻を除けて仕舞つた所の眞物の寫眞です。さう云ふ風になるか、或は鼻の柱が失くなッて仕舞つて、先刻お話した所の平鼻と云ふ、頰の高さと同じになつて仕舞ふ。此等の書は皆唯今申したやうな病氣のために變形したのでございます。斯う云ふ恐るべき所の病氣は、是非とも撲滅しなければならない、此病氣は唯それに罹つた人ばかりでなく、子孫までも餘毒を遺すものでありますから、吾々衛生のことに注意して居るものは、最も注意して是等の病氣を社會から除けて仕舞はなければなりませぬ。』

其次に鼻の色艶と云ふことをお話いたします。鼻の頭は立派なものであるのに、所が或病氣に罹ると、非常に尖ばかり赤くなることがある。吾々は通常そ

れを赤鼻と謂つて居るのです。歳を老つた人の、非常に鼻の赤いのは往來で逢ふことがありませう。昔は酒を飲むと鼻が赤くなると云ふことに考えて居つて、それに酒皶鼻と云ふ名を付けて、鼻の赤い人は必ず酒を飲むと思つて居た。所が段々調べますと、鼻の頭の赤くなるのは、必ずしも酒を飲んでなるのみではない。殊に妙齢の――若い女の方に能く來る病氣で、西洋などには澤山さう云ふ方があります。日本にも澤山あると思ひますけれども、併し是は却て自分で愧ぢて、醫者の所へ來ないために少なく見へるのであらうと思ひます。其病氣は昔から日本にあつたと云ふことを、私は源氏物語の中でそれを見出しました。其源氏物語の末摘花の巻に斯う云ふことが書いてある。

　うちつぎてあなかたわとみゆるものは御鼻なりけり、ふと目ぞとまる、普賢菩薩ののりものとおぼゆ

普賢菩薩と云ふのは――是は源氏物語註釋湖月抄などに書いてありますが、觀普賢經と云ふ御經の中に「普賢菩薩乘大白象鼻如紅蓮花色」とあつて、即ち眞赤な蓮花のやうな色をして居るのを云つたものです。それから次には

　あさましう高うのびらかに、さきのかた少したりて色づきたる事ことの外にうたてあり云々

さう云ふことが書いてありますが、今此主人公の末摘花は、紛ふかたなく、赤鼻であると私は思ふ。末摘花と云ふことを赤鼻と云ふことに用ゐて居るのは、誠に巧みな名の付方であると思ふ。それから萬葉に

　よそにのみ見つゝや戀ひむ、紅の末摘む花の色にいでずとも。

などゝあるやうに、紅の花は末より咲けば纔て末より摘む故に、末摘花と云つたので、併し是は一ッの花が先から赤くなつて來るのであるか或は紅草の末の方の花が先きに赤くなるのであるか其邊は甚だ不明瞭です、それで植物學者に聞きました所が、紅

の花と云ふものは薊のやうに刺を有つて居り又赤味も薊の花に似て居るさうして大變刺が澤山あるために花の全體を取ることが出來ず、末だけ摘みとるそれで多分末摘花と云ふことに謂つたのであらうと申しますが此說が宜いと思ひます。ツマリ、此末摘花と云ふのは大變に見苦しい鼻のことを優美に言表はしたので、之を唯末摘花と言ふだけては、非常に見苦しい鼻と云ふことは想像が出來ない位でございます。」

ソコて、斯う云ふ風に鼻が種々の病氣に罹つて失くなることもありますから、先刻お話いたしたやうに、造鼻術と云ふものが開けて、今お廻した寫眞の、やうに、現今ては蠟細工て立派に出來るやうになつたのですが、殊に御婦人の方は鼻がないと云ふのは非常に見惡いと同時に、又義鼻を附けた時分には都合よく――、常箝まる。何故かと云へば、其蠟細工の義鼻を附けても白粉を塗ると、繼目が判らなくなるからてす。併しそれは蠟細工てあるから火て溶ける。又顔を洗ふ時などには非常に困る。是は實際義鼻を附けて居る人の訴へる所でありますが、何れにしても天然の鼻のやうには往きませぬ。夫故に先刻からお話いたしたやうに、鼻の内の病氣からして種々のことが違つて來ますから、此鼻の内の病氣のある場合には早く療して置くと云ふことは、鼻の形を惡くしない爲めにも非常に必要なことでございます。是で外鼻のことは大抵お仕舞にして今度は内鼻のことを少しお話して止めませう。

内鼻と云ふのは、鼻の孔から内を申すので、吾々の方では鼻腔と云ふ名が附いて居ります。鼻の孔の形は、通常楕圓形ですが、其孔の形に就いて古事記の中に書いてあることがございます。即ち神代の巻に、素戔嗚尊が大氣津比賣神を殺した所があるが、此大氣津比賣神は五穀の神様であつて、種々の穀物が此神様の身體から出て來たと云ふことが書いてあります。即ち頭から蠶が出て來て、目から米が出て來ました。それて、目の形は米の形をして居り。又鼻の

中からは小豆の頭が出たから、それで人間の鼻の孔は小豆の形をして居ると云ふ註釋が書いてあります。ソコで是は大變面白い話で、實際吾々の鼻の孔は小豆の形と云ふのが適切であります。」

さうして、此鼻の孔の中には澤山毛が生えて居りますが、此鼻毛と云ふものは、どう云ふ必要があるかと申すと、吾々が呼吸をする時空氣が其處を通つて來るのに、丁度篩の網の目を通るやうなもので、大きな塵埃は皆捕へられる。さう云ふ必要があるからして、此鼻の毛を剃ると云ふことは、實際鼻の毛のある目的に背いて居る譯で、此鼻の毛を剃らない方が宜しい。」

それから鼻の毛のある處は丁度玄關のやうな場處であつて、其處を通つて初めて本當の鼻腔に入るのです。それは詳しく言ふと面白くありませぬから、ザツト申して置きますが、鼻の中は外から見れば丁度三階造りの家の廂が突出て居ると假定すれば宜しい。

斯う云ふ風の構造です。此三階作の家屋のやうなものを甲介と申し、上中下の三ツに分けます。そうして此上も鼻腔の壁も一體に粘膜



といふ皮から被はれて居ます。その粘膜からは粘液と云ふものを、斷えず分泌して居る。此が即ち鼻汁です。又此鼻の中は大きな孔でなくつて、狹い孔でございますが、それが又吾々の呼吸をするのに必要なことであります。」

ソコで構造のことは此位にして置きまして、此鼻の腔は、どう云ふ働きをして居るかと云ふと、一番必要なのは、空氣を呼吸する道として、非常に必要です。昔は唯鼻は匂を嗅ぐためと云ふことは知つて居つたけれども、呼吸に付て必要だと云ふことは、知つて居らぬやうですが、併し是は呼吸のためには非常に必要です。吾々は其必要であると云ふ譯を種々有つて居る。第一には今お話したやうに、道が出つ

て居るから、例へば非常に寒風の中に立つて呼吸をしても、其曲つて温かい處を通る間に、幾分か空氣が温まる、それに又空氣が此内の水分を取つて濕つて來ると云ふ點がある。又塵や埃は毛で防ぐ、又粘膜の處で粘し着けて仕舞ふのでございます。それから此塵埃と云ふものが、鼻の中に入ると、嚏と云ふものが出ます。此嚏をするのに鼻の中に惡い物の入つたのを出すための作用です。丁度咽喉の中に惡い物が入つて、咳をして略出すと同じことです。然るに、昔から此嚏をすると云ふことに、一種の意味を有たしてある。即ち一ッ嚏をすると何だとか、二ッすると自分を誹るとか云ふやうなことを言つて居る。それから又支那の内經と云ふ書物にもありますが、嚏に二ッの種類がある。第一は生理的に「如風寒稍將胃則嚏連發」、第二は「如無由而嚏者以爲人謗我乃呪曰休息命云々」即ち風を冒きさうになつて、非常に寒い思をすると出る。又さう云ふ原因が無くつて出るのは、是は人が自分のことを惡く言つた時に出ると云ふことに書いてございます。又日本の徒然草には斯う云ふことが書いてある。「ある人清水へ參りけるが、老いたる尼のゆきつれたりけるが道すがら「クサメ〳〵」といひもてゆきければ云々」即ち或尼さんが途中で「クサメ〳〵」と言つた。それが分らないから「クサメ」と云ふことは、どう云ふことかと聞いた所が、大變腹を立つて、今自分の預つて居る所の子供が嚏をして居るだらう。嚏をして居る時、「クサメ〳〵」と言はないと、命が失くなると云ふやうなことが書いてあります。併し吾々の方では嚏と云ふものは、一ッの保護的の反射作用でございます。」

第二には、鼻の内には平常粘液の分泌があつて水蒸氣を造つて居るから、鼻の内を通る空氣は適當に濕つて行くことが出來るのでございます。又鼻汁の出方などが通常と違つて、非常に多くなることがあり、非常に少ないこともありますが、それは二ッとも病氣です。又吾々が泣く時には鼻汁が多くなる。御婦

人などは能く御存じのことで、泣けば鼻汁が多い。それは眼と鼻との間に管があつて、涙の餘りが其管から鼻の方へ來て鼻汁と共に出るのでございます。夫故に泣く時に鼻汁が出ると云ふ事柄は、いつでも離れることは出來ないのであります。此「ナンダ」と云ふ字に「洟」と云ふ字を書くことがありますし、又鼻汁と云ふ時に「洟」を用ゐることがあります。所が又此洟を涙と云ふ字に使つて居る場合もある。即ち此「洟」と云ふ字は「ナンダ」とも「ハナシル」とも使つて居る。眼から少し垂れる時には「涙」と云ふ字を使つて落涙と申し、又同じ「ナミダ」でも澤山流れる時には「流涕」など丶云つて「涕」の字を使ふ。之を以て見ると、泣く時には鼻汁が多くなると云ふことは、昔から知つて居たことだらうと思ひます。さうして又解剖で調べて見ますと、此鼻の中には、眼の涙の點から（それは眼頭の近くに上下の瞼の縁に開いてをる小さな點で、兒供などが、よく紙捻をさして遊んだりする孔です）鼻の中に開いて居る管があります、それが鼻涙管といふのです。涙は皆鼻の中に流れて出る。」

又近頃になつてからは「エムピエーム」と云つて居りますが、是は鼻腔の傍の骨の中に膿の溜まる病氣で、昔は其膿が鼻の中に出るのは腦髓が腐つてるのだと言つて居つたが、今では此左右の骨から流れて、（左右の頰を指す）さうして鼻の中に來る。これが鼻汁と混つて濃い黄いのが出る。それが出ると、非常に物覺が惡くなる、學校で落第すると云ふやうなことも、此「エムピエーム」に罹つて居るやうな人に多くあります。この「エムピエーム」といふ詞は二三年經つたならば、どんな人でも知る所の通常語になるだらうと思はれます。」

それから第三に、鼻の中で必要なのは、溫氣です。此溫氣で空氣が溫くなるのですが、若し口から呼吸をすると、口の中と云ふものは廣いから、能く溫氣を取ることも出來ず、塵埃を除くことも出來ずして、其儘に肺の中に入つて行きますから、口で呼吸をす

る人は、皆咽喉が惡い。氣管も惡い。夫故に鼻の詰つて居る時には、吾々は早く療治をしなければならぬのでございます。」

第四に必要なのは此鼻の腔が適當の廣さを有つて居ると云ふことです。口で呼吸をすると、空氣が澤山入つて宜さゝうに考へられますけれども、決してさうでない。空氣が此肺の中に入つて、こゝで以て酸素を血液にやり炭酸を取らうと云ふには時間が掛るものであつて、肺の中に入つた空氣が暫く經つてから、徐々に出て來ると云ふことが必要なことでありますから、鼻で呼吸をすると云ふと、丁度空氣が清淨になつて入りさうして肺から血液の中に酸素を送るのに相當な時間を有つて居るが、口で呼吸をすると、此時間が短い。さういふ點から言つても口で呼吸をするのは大變宜くない。」

第五には此鼻の構造です、鼻の構造は口の構造と大變違つて居る。どう云ふ點で違つて居るかと云ふと、口を造つて居るのは唇と云ふ非常に軟かい肉です。所が鼻を造つて居る所のものは、所謂軟骨と云ふものです。夫故に鼻の入口は通常塞がることはないから、氣體の出入には都合が宜しい。けれども若し是が軟かい肉で出來て居ると、丁度鼻を閉いて呼吸をすると同じやうになる、夫故に鼻は軟骨で造つて、開放しにして置く必要があるのです。固形體ならば押擴げて入れることが出來るけれども、呼吸と云ふものは氣體ですから、開けて置く必要があるのでございます。」

それから次にお話するのは、鼻で臭を嗅ぐと云ふことです。是は極く小さい子供でも知つて居ることですが、併しどう云ふ必要があつて嗅ぐと云ふことは大變難かしい問題です。先づチヨツト申せば、吾々は惡い物は惡い臭を有つて居ると云ふことは知つて居るし、又好い物は好い臭を有つて居ると云ふことも知つて居るから、例へば臭い物があれば其傍に寄らないやうにする、又一方から言へば、美味しい御馳走などを食べる時分に、若し臭がしないと旨い物

も旨く食べられないから、鼻と云ふものは、食物を味ふと云ふことに就ても非常に關係して居る。それであるから鼻を能く臭はして置くと云ふことは、さう云ふ點に於て必要です。殊に日本では香の道が開けて居りますから、其方をおやりになる方は、鼻が惡いと全く判らない。それから能く昔から日本の俗諺に斯う云ふことがある。

　梅の匂を櫻にもたせ、枝垂柳に咲かせたい

是等は皆鼻で樂むと云ふことが明らかなのでございます。併しながら此臭を嗅ぐと云ふことは、人間が一番拙ない。種々の動物の中で、人間ほど鼻の利かないものはない。犬などは主人の步いた足跡を嗅いで、主人のことを知ると云ふ程に發達して居ります。又人間でも、人種の下等になるほど鼻の力が强い。それは昔の人の書いた書物にも能くありますが、西印度の諸島――彼邊の土人は、大變穢ないお話ですが、小便の臭を嗅いで、白人種と黑人種との區別をすると云ふことです。例へば白人種を追跡して捜す時分に、鼻で嗅分けて追跡すると云ふ風に鋭敏です。犬に大變能く似て居ります。又「アーピング、ワシントン」と云ふ人の書いた「コロムプス」の旅行記の中に、「ヒスパニオーラ」と云ふ處の土人のことがありますが、それは非常に鼻の感覺が發達して居る。其土人に、金貨や、銀貨、又は錫で造つた物などを暗夜の中で手渡しても、直ぐに嗅分けると云ふやうに、非常に鋭敏なさうです。併ながら吾々文明に進んで居る所の人々は、非常に鼻の力が弱い。殊に鼻が少し詰つても、モウ臭が能く判らない位でございます。」

それから又鼻の孔と云ふものは大變に腦髓に近いもので、鼻の孔の上は直ぐに腦髓になつて居て、丁度薄い壁一重で堺して居るやうなものであります。人が卒倒した時とか、或は眩暈のした時には、藥を鼻から吹込んで遣ると云ふことが、能く醫者の書物などに書いてありますが。それで思付くのは、――「ベイブル」を御覽になつた方は御承知でせうが、舊約

全書の創世紀に斯う云ふことがあります。
「和華神以地塵造人、嘘生氣入其鼻而人成爲生靈云々」
即ち「エホバ」の神が靈魂を鼻から吹込んだと云ふことが書いてありますが、兎に角鼻は腦髓に近くつて感應し易い場處であると云ふことは、舊約全書の時代から知れて居たものと思はれます。』

それで最後にお話しやうと思ひますのは、鼻が音聲に關係して居ることですが、鼻が惡いと音聲が大變に惡くなる。それはどう云ふ譯かと云ふと、吾々の聲と云ふものは、恰度皆さんが常にお用ゐになつて居る所の「バイオリン」琴、三味線などを御覽になつても解りますが、あれは皆箱がありませう。鼻腔は丁度その箱のやうなものです所で若しその箱の代りに平たい板でも蓋としたならば、決して、あんな美い音は出ない。又「バイオリン」の箱の一部分を毀すか、或は中に品物を詰めて彈けば、必ず音が惡くなる。それと同じやうに、鼻の中に腫物が出來て詰るか、或は腫れて來るか、或は鼻の一部分が毀れて仕舞つて丁度「バイオリン」の箱を毀したやうになつたならば、吾々の音聲が惡るくなると云ふことは當然である。さう云ふ點から考へても、此鼻と云ふものは、非常に必要な場處でございます。併し此事に就ての詳しい話は、多分日外岡田先生からお話があつたやうに思ひますから、私は今日詳しくは申上げませぬ。』

夫で今日お話したことは非常に雜駁なお話でありますけれども、此中からして皆さんが鼻の解剖と云ふこと、及生理と云ふことの一部分がお解りになり、又醫者の方の研究に屬して居る所の鼻と云ふ問題も必ずしも乾燥無味のものでない、通俗的の趣味を有たせることが出來る即ち科學的の難事と通俗的の趣味との間にはかけ橋があると云ふことを、幾らかお了解になつたならば、甚だ滿足する次第でございます。』

●箴言

養生の術は、先、わが身をそこなふ物を去るべし。身をそこなふ物は、内慾と外邪となり。内慾とは、飲食の慾、睡の慾、言語をほしいまゝにする慾と、喜怒憂思悲恐驚の七情の慾を云ふ。外邪とは天の四氣なり。風寒暑濕を云ふ。内慾をこらへてすくなくし、外邪をおそれてふせぐ、是を以て、元氣をそこなはず、病なくして、天年を永くたもつべし（養生訓）

●正誤　前號雜誌次欄に於ける醫學士長谷川寛治郎氏の海水浴に關する演説を高崎支會講演とせしは（新潟支會）に於ける講演の誤植又前號本誌表題發行年月中三十八年は三十五年の大誤植其他の誤植等よろしく大方の宥恕を乞ふ

高崎支會講演

食饌衛生に就て（於高崎支會）（第二回）

莊司森之助述

前回の總論に於て、吾人は、日々食物を攝らねばならぬ必要の理由として、人體の構成物、體溫の持續、發溫の原理、溫量の計算、新陳代謝、食物の攝量に就て、申上け置きたれば、已に御判りの事と思ひますから、今日より進んで、食物の各品に就て、養價を申上げようと思ひます、然しながら、學理的に、一々説明致しまするど、却て聞取り惡くなりますから、學理に戻らず、成可簡易にして、容易に御判りなさる樣に、日常の配膳に上りまする品物に由て、説明致しまするから、疎なることは豫め御承知置きを願ひます、

浮世のさまは、上は貴顯紳士より、下は車力業に至る迄、貴賤貧富著しき差別がござります、從て或は安逸を貪り、或は勞働を務めるなど、千種萬情であります上に、尚ほ又家風の習慣、各人の嗜好等によりまして、食物も各異つて居りますから、之を區別して説明するは仲々容易の事でありませぬ、否な出來得ざることとです、であるから通常多くの家、即ち中等以下の處にて攝りまする食物に就て、漸次

御話申上げ其局を結ばうと思ひます、

朝食

我國の朝食と申せば、大概の家にても左程御馳走せないのは通例の樣に思ひます、即ち飯、汁、香の物位で濟し、側ら牛乳とか、卵とかを混食なさるよふです

米飯は、我國古來より主食と致しまして、富者も貧者も皆な用ひてあります、其製法は御承知の事てあれば之を省きまして、之を一碗（漏斗形直徑三寸五分深さ一寸二分）に九分目に盛りますると、其量は三十匁ござります、此養價は何程ありまするかと申せば、米の產出せし土地により米に善惡の差が御坐ります、又た白げ樣にも階段ありまして、穀物商などては種々に區別してありまする如く、精米の成分にも種々の差異あります、從て之れより製しましたる御飯の成分にも差がありますれど、横濱衞生試驗所の分析せし成績に據りますると、家常飯の成分を百分比例にて申しますれば、

	水分	蛋白質	脂肪	含水炭素物	木纖維	灰分
家常飯	六五、〇	二、六五	〇、〇三	三〇、七一	一、〇六	〇、五三

てあります、

此物吾人の體中に入りまして皆な、養分になると云ふ譯てありませぬ、其内腸より吸收せられざるものは、糞塊となりて、體外に排泄せられます、其の吸收せられまする分量を、百分比例にて申しますると

（牧山氏の分析に據る）

	蛋白質	脂肪	含水炭素物	生纖維
吸收量	六七、四〇	五五、八九	九九、五七	五七、四九

含水炭素物は、最も良く吸收せられ、其他の物は約半分損失になります、此事は西洋人と日本人と大に異なる處てありまして、彼にありては蛋白質、脂肪等は能く吸收せられ、含水炭素物は比較上吸收惡しと申します、殊に生纖維は全く吸收されぬと云ふてあります、米飯の成分より損失量を引き去り、吸收せらるべき物の眞の養價を精算致しますると、

米飯三十匁一碗の養價　百六十五温量

故に一食事に、三碗を食すれば、四百九十五温量と

なり、一日に千四百八十五温量となる、四回四碗つゝを食すれば、一日千九百八十温量となり、若し一回四碗つゝとすれば、二千四百七十五温量となりて、一日間の放散温量と稍々匹敵する様になりまして、他の物質を攝らざるも、敢て差支なき様に思はれます、是れ我國人は古來より、米を主食と致しましたる譯で御坐りましよふ

御家によりましては、割麥飯を召上ることもありまするから、之を附け加へて申上げましよふ、近頃食用麥には二種類あります、一を挽割麥と云ひ、一を壓搾麥と申します、けれども多くの家にては挽割麥を御用ひなさる様です、其割合は御家に由て異なりまして、一分割二分割三分割などあれど、爰には三分割の挽割飯に就て申上げますから、他の割合は米飯と比較下さればば大躰御解りのことゝ思はれます、米七分挽割三分の麥飯の成分は（大井玄洞氏分析）

	水分	蛋白質	脂肪	含水炭素	纖維	灰分
麥飯七ト三割	六六、〇〇	三、二二	〇、七一	二九、一六	〇、四三	〇、四五

麥飯は吾人の體中にて、吸收せらるゝ量は米飯より惡しく、屎塊となりまして排泄せらるゝ損失量が多き様に見へます、其吸收量を百分比例にて申せば、

（牧山氏の分析）

	蛋白質	脂肪	含水炭素	木纖維
麥飯七ト三割	六七、二一	―	九九、八四	六四、四六

故に挽割飯を一碗に盛りたる發價は、

挽割飯三十匁一碗ノ發價　百五十一温量

故に一食事に、三碗を喫すれば、四百五十三温量、一日三回食すれば千三百五十九温量になります、又た一回四碗つゝ食すれば、一日千八百十二温量、又た一回五碗つゝ食するときは、一日二千二百六十五温量となります、之を米飯に比較致しますると、吾人の體中に攝られまして養價になるのは、米飯の方が餘程宜しき様に思はれます、今一日分を比較すれば、

	米飯	麥飯	麥飯の損
一食事一碗ヅヽ一日三回	四九五	四五三	四二

仝	二碗ヅヽ一日三回	九九〇	九〇六	八四
仝	三碗ヅヽ一日三回	一四八五	一三五九	一二六
仝	四碗ヅヽ一日三回	一九八〇	一八一二	一六八
仝	五碗ヅヽ一日三回	二四七五	二二六五	二一〇

麥飯は米飯に比較致しますると、右の如く損がありますけれども錢價より申せば挽割麥は白米より約ね半價でありますから、養分の多少のみを以て、可否を別けることが出來ませぬ、今錢價の對照を求めますると

	米飯	麥飯	麥飯の利益
三碗の錢價	一錢六厘八七五	一錢四厘二五	二厘六二五
六碗	三錢三厘七五	二錢八厘五	五厘二五〇
九碗	五錢〇厘六二五	四錢二厘七五	七厘七七五
十二碗	六錢七厘五毛	五錢七厘	一錢〇厘五〇〇
十五碗	八錢四厘三七五	七錢一厘二五	一錢三厘一二五

の様でありまます、けれども之れにては未だ何れが利益になるか御判りになりませぬから、錢價一厘に就て溫量の發生を算出致しますると、

錢價一厘に付	米飯溫量二九、三	麥飯溫量三一、八

にて麥飯は米飯よりも一厘に付き二、五溫量の利益がありります、

以上の比較事項を簡易に解釋致しますると、米飯と麥飯と同量を攝りまするると、麥飯の養價は少ふござりまするから、米飯より少しく餘分に攝らねばならぬ様になります、從來皆様の御承知の通り麥飯を食しまするると、米飯よりも早く空腹を感する様にあるのも、矢張り此等の關係によることとて、當然の様に思ひます、けれども金錢の價より見れば麥飯の方が利益であります、俗に麥飯を食する者を卑むの風習あるは、只皮相的の觀察で、實際上より割出した話でありませぬ、且つ御勞働の少なき御方は麥飯を召上りまするると、米飯よりも却て腹内臟器の工合が宜しひと申されます、又た麥飯け脚氣の豫防にもなるとて、陸軍の方では現に兵卒に給して居りまするから、脚氣の氣味を有する御方か、或は土地を時々變換なさる御方、例令官吏諸君などは、常に麥飯を御用ひになりまするると、經濟上衞生上共に御利益ある事と思ひます、御飯の事はまた種々のもの御ざりますれど、措きまして次は汁に移ります、

朝の汁は、土地の風で、醬油汁及味噌汁の二樣ある樣でありますが、此土地では主に、味噌汁を召上られまするから、之を中上げることに致します、味噌にも白味噌、赤味噌、江戶味噌、仙臺味噌、田舍味噌、鹹味噌、甘味噌等の種類がござりまして、其成分も色々異なりますれど、駒場の分析表に據りまして、成分中の百分比例を申上けまするど、

	水	蛋白質	脂肪	含水炭素	木纖維	灰分
味噌	五〇、四〇	一〇、〇八	―	一八、七七	八、二五	一二、五〇

味噌汁を製するには、味噌五十匁を鉢にて擂り、水一升を入れ、能く混和し、味噌篩にて濾過し、汁の原料となし、直徑三寸四分深さ一寸三分の碗に八分目に入れ、之を十三碗に配けまするど、一碗の味噌の正味は三匁九分となります、此吸收養價のみを算すれは二十一温量になります、

汁は味噌のみならす之に味を附けまする爲めに、鰹節若くは干鰯を御入れなさる樣です、けれども多くの家にては、鰹節が用ひられまするから、之を一升の汁に二匁五分を入るゝと假定致しますれは、一碗には約二分となります、此鰹節の成分を百分比例にて申せば、

	水分	蛋白質	脂肪	灰分
鰹節	一四、二七	七五、六〇	五、一一	五、〇二

之を一碗に分配致しましたる二分に據り、其吸收養分のみを算出すれば二、五温量を得ます、

此汁の中には、汁の實と稱へまして、野菜類か又は海藻類か若しくは人工物を入れますれど、朝汁の事でありまするから、豆腐を入るゝことに致します、豆腐の成分は、主に豆の中にありまするレグミンと申しまする植物蛋白より、人工的に凝固致させたものにて、其成分を百分比例にて申せば（加納、飯島氏分析に據る）

	水分	灰分	蛋白	脂肪	生纖維
豆腐	八七、八〇〇	〇、七一三	五、八三一	四、四一〇	〇、一〇七

豆腐を食しましても、皆々吸收せられませず、一部は糞となりて排泄せらる、其吸收量を百分比例にて申せは

	蛋白質	脂肪	生纖維
豆腐	八九、一七一	九五、二六〇	七九、〇七七

味噌汁一碗の中に、豆腐を二十匁入るゝと致しますれば、其營價は四十六溫量になります、故に、味噌汁に、鰹節を入れて味を善良にし、豆腐二十匁を入れましたる、一碗の營價を総計すれは、味噌二、一〇　鰹節二、五　豆腐四六　計六九、五　溫量安逸の御方は一碗にて宜敷からんも、勞働する人は一碗にて滿足せず尚ほ多く飲みます、二碗とすれば一三九溫量、三碗とすれば二百〇八溫量となります、此外に、朝食には香の物が是非ありまする其種類は時期と御家風にて異なりますれども先づ澤庵と漬菜に致しました澤庵漬は善良の香の物にて秋に漬けて貯へ年中絶ゆることありませぬ其成分を百分比例にて申せは

	水分	蛋白質	脂肪	含水炭素	纖維	灰分
澤庵漬	八三、七三	一、三八	〇、〇八	六、〇一	一、三四	八、四〇

（以下次號）

●箴言

養生の道、久しく行き、久しく坐し、久しく臥し久しく視ることなかれ（千金方）



肺病豫防　掃除の方法

青森市公立病院長醫學士　竹中成憲　述

前世紀の終に近き二十年に於て、肺病は日本に著しき增加を爲せり、其原因は、武藝時代に比して人民一般に體力減衰せると、交通機關の發達に因り體力減せると共に病毒を散亂せるに因るべしと雖、予は他に一大原因として、室內に土足出入の洋風を思はざるべからずと信ず、西風輸入してより西洋造起り、之に出入する者は洋服と和服とを問はず靴を用ゐ、西洋に在ては此風の古きがゆへに、人々之に對する清潔法を心得居り、土足とはいひながら頗る清潔なり、彼等か家に到らば、美麗なる敷物の爲めに、靴

のまゝ昇堂するを憚る事あるは、洋行者の心肝に銘する所なるべし、退て吾人の所謂西洋造を見るに、多くは不潔千萬にして、外國人に對しては赤面の至なり

是れ土足昇堂の風に慣れず、昇堂に際し靴を掃除するの術を知らさるに因ると云はざるべからず

吾人は又肺病の恐るべき事を識らず、患者一回の痰中には幾億萬の黴菌（肺病原因虫）のあるを思はず、街路、屋内の土間は勿論、流しの板の間風呂屋の板の間に到る迄痰を吐く有様なるがゆへに、吾人の靴の裏には無數の肺病毒附着しあるものと思はざるべからず、西洋にても、此頃洋婦の街路を引き摺る的長き婦人服を禁するの議ある程にして、土足の恐るべきは明なり。

此頃の「萬朝」に左の事あり專門雜誌所載にあらざるを以て之を以て直に適當なる引證となすは穩當ならざれども參考に資するの價値なきにあらず

●婦人服の裾と黴菌の數　英國の一雜誌は古き紙幣中には驚く可き多くの黴菌を含み居れるが婦人服の裾には更に多くの黴菌を含み居り或る人の撿したる所に據れば裾の縮緬の一片に二萬六千八百個の黴菌を含み居り又幅六吋長さ其五倍なる裾の二片には千〇六十七萬二千個の黴菌を含み居たりと而して婦人が裾を地に引摺る際裾に附着せずして地上に亂れ動き人の呼吸するもの若しくは裾に附着して家に歸りたる後振ひ落さるゝ黴菌は數限りも無きこととなりと云ふ

獨逸の結核專門學者コルチット氏は空氣中の結核菌を撿さむと欲し菌の重力の規則に據り下方に沈澱すべきを考へ床板上の塵埃を撿査して果して結核菌を得たり尚ほ其生活力の有無を撿さむとして該菌を動物（メール、シュワイン）の腹膜下に注射し其動物に結核病の新生するを見て生活せる有力なる結核菌の塵中に在るを確めたり尤西洋に在ては街路の塵埃中本菌を發見せる實例は今日までは比較的少かりき

之に反して肺病者の室は、肺病黴菌を以て充たされあるものと想像せざるべからざるが故に、疊の上ですら濕りたる布片を以て拭ふを耳とし、普通の如く箒にて掃くは危險也、若し掃く時は其後二時間以上其室に入るべからず。

何となれば室内の塵は凡二時間を經るにあらざれば床板上に沈澱せざるものなればなり、(コルチット氏説)ゆへに掃除に就ては、十分の注意を爲さゞれは黴菌吸入の結果、既に肺病あるものに更に同一患者の肺の他の健康部に新なる肺病を起さしむ、洵に恐るべき事ならずや、退て土足昇堂許可の、我所謂西洋造に於ける床板掃除の樣を見るに、普通疊の上を掃くと少しも異らず、塵風雲を爲し呎尺を辨せざるものあり、是豈官吏會社員等に肺病多きの理由にあらずとせむ乎、掃除時以外に於て、彼等公務中に於て、彼等の室に在て太陽光線の射入するの所を見よ、細塵雲烟を爲して霧の如し、此細塵を衛生學上『太陽塵』(獨逸語(ゾンチン、スタウブ)といふ、實に此塵は靴より來るものにして、肺病は勿論他の疾病(例之化膿)の原因となる所の少有機躰(虫)を含有す、此室内に於て日々八時間の勤務を爲すもの、而して其身躰は多く神經衰弱的の、骨川瘦吉的なるもの、如何にして此病毒に打勝を得む。

學友東京府技師遠山椿吉君は本年(明治卅五年)三月より何如に結核菌が人跡到る所に瀰蔓せるかを證せむと欲し學校、停車場、公廳、官舍等に於て塵穢を採取し之が中に菌の有無を撿せる事一百十四回而して此中菌を發見せる事十回なりき先年岡田博士も同樣なる試驗を爲せり豈寒心せざるを得むや。

鐵道には、此頃『列車給仕』なるものを置き乘客の用を辨するの外、車室内の掃除を爲さしむ、甚だ可なりといへとも、其掃くや塵埃雲を爲し給仕自身は勿論(給仕は呼吸器を用ゆへし)乘客をして無數の黴菌を吸入せしむ、客にして辨當にても用ゆるあらむ乎、黴菌を喰はざるべからず、此塵埃を作る所以のものは、我國人の靴を使用するに當ても之を拭ふの

道を知らざると、列車には下駄の儘入るを許しあると、一般公德觀念の欠乏との三事に歸因す、列車内は街路(我國の)と異ならざるなり、故に我國列車は外國の者と日を同して論すへからず。

又此頃の「萬朝」に左の事あり是亦參考となすに足る

●市街電車と衞生上の害　外國殊に米國の市街電車は我國の鐵道馬車等に比し衞生上の注意遙に行屆きたるものなれとも之すら衞生上の缺點少なからずとて同國のソーパー博士は紐育の醫事新報に於て之を批難して曰く電車の窓は屢開かるゝも尙普通電車中の空氣には二十六分强の炭酸を含み高架電車には三十一分强の炭酸を含み又車内の敷物一吋平方に三四百萬個の黴菌を含み居れり而して車内に唾を吐くための害は實に危險なるものなり車内に坐する時間は多きも一時間を超えざるも此間に病毒の傳染せらるゝことは恐るべきものあらん云々と

抑吾人は此塵埃を防くの方法を講せざるべからず而して其方法たるや甚だ簡單なるものなり、即ち「濕潤法」を採れは足る。

予の奬勵する法は、鋸屑(青森「のこくず」、越後「ふきのか」「ひきぬかの訛」、東京「おがくず」の十分水を含ましめ、之を床板上に散布して後掃く也此法は敢て予の發案にあらず、西洋にては夙に之を用ゐ、我國にても食鹽又は茶滓を疊の上に散布して而して後掃く事あり、同一の考案なり、予曾て青森能代間鐵道開通式に臨み、能代の材木會社を參觀し、當時同社に於て鋸屑を空しく放棄するを見て、之が利用の途を考へ、之に消毒藥を含有せしめて、便所に臭氣止として用ふるの考あるに先ち之を上記掃除用に供せむとす願くは官衙會社學校列車等一般之を此用に充てむ事、予の深く望む所なり、鋸屑は到る所にあり、夏期に在ては氷屋の濕りて用を爲さゞるものを用ゆるも亦可なり又此頃左の事を新聞紙上に見たり

果して實用となるや否や

●塵の立つを防ぐ油　此頃墺太利に塵留藥とも稱

すべき一種の液劑を發明したる者あり、一見棉花油に異らざる由なるが、維納にての實驗に依るに此油を年に二回床の上に撒布すれば一週間一度位の掃除にて十分にして而かも掃除の間少しも塵の立つことなく極めて清潔に室内を保ち得る由にて、既に旅館、劇場、圖書館等の如き多數群衆の雜踏する所に用ゐて奇効を奏したりと云ふ

予の法は即日より何人も之を實行する事を得て價亦極めて廉なり

（完）

●箴言

養生の要は、自から欺くことをいましめて、よく忍ふにあり。自欺とは、わが心に、すでにあしきとしれる事を、きらはずしてするを云ふ。あしきとしりてするは、惡をきらふ事眞實ならず。是自から欺くなり。欺くとは、眞實ならざるなり。食の一事を以ていはゞ、多くくらふがあしきとしれども。あしきをきらふ心、實ならざれば、多くくらふ是、自から欺くなり。其餘事も、皆、これを以てしるべし。

〔衛生〕

醫學士　久保猪之吉

前置き

今回から諸姉に此欄てお目にかゝる事の出來るのは自分ながら嬉しく思ふ所です。色々お勸めもいたしたり、お諫もいたしたり、また御相談もいたしたいと思ふ事が深山ありますが、中々面白いやうにまゐるまいとおそれてゐます。歌か、文章かならば少しは筆が走りますが御忠告メイた事は中々むづかしい。又醫學の理論ポイ事なら書き馴れても居ますが通俗的の事は却てむつかしいのです。しかし、お約束いたしたからは一つ奮發して、家内の小さな人達に朝夕話して聞かせるやうにやッて見ませう。

一躰人間は火災に逢ッて火をおそれ、水害に遭ッて水をこはがるやうに病氣にかゝらなければ病氣をおそれない。それが弱點です。火や水や

を前から用心すれば火災水害の心配は無い。丁度それと同じやうに平生から病氣を恐れて、それに侵されないだけの準備をすれば決して病氣にかゝる譯のものではありません。いくら健康の人でも身体の使ひかたがわるければ早く弱るか。急に病氣にかゝるのです。所がよく道理を解ッて用心していく人はたとひ短命の壽命を持ッて居ッても壯健で長く業務が出來ます。

私は幼少の時から松平樂翁公の傳記が好きでよく讀みました。何故好きだッたかと申すと此方は幼少の折には至ッて虚弱な質であッたのですが此養生の法といふ事を守ッて健康になッたのです。私も少さな時に弱かッたものですから格別此方の一生が自分の同情を引たのです。此方は諸姉も御承知の通り白河の城主であッて歌や文章に長じた人です。若い時根氣のよいのに任せ源氏物語や枕の草紙等を盛に寫し胸などの痛くなる事もあッたそうです。その爲にお附きのお醫者に學問を爲る事はお止しなさいと迄斷はられた。所がその後で衛生といふ事に注意するやうになり。年を取ッて後も庭に石を運ぶのを毎日の課業としたといふ位です。即ち今日の運動といふ事を規則正しくやられたのです。ソレで夭死するだらうと醫者にいはれたのが却て七十幾歳迄長生されたのです。」

又モ一つ諸姉にお知らせ——御紹介いたしたいのは私の國の安部井盤根翁です。諸姉も御承知でしよう、第一回の議會でした、皆に推されて副議長になッた方です。此方は議員の中で最も年齡の多い仲間で、最も氣骨のある組です。今では七十を少し越えて居りませうが、その元氣の盛な事は青年も及ばない程です。いつもお目にかゝる時お話になるのはちいさい年代に弱かッた事です。それで少さな時皆に長生はむつかしいといはれて極やせてをッたそうですが醫者に衛生の話をきけば歸ッて直とそれを實行する

やうな工合にやられた。一時その烈しかッた時分には一日に水何合、卵子何個、弓術散歩何時間といふ風にチャンと規則を立てゝ一々實行せられたといふ話です。その爲めに今では同年輩又は年若い人々が續々と死去ッたのにも拘はらず。尙存命て氣骨稜々として丁度松の高いのか梅の淸いのかを見るやうです。

こんな方々はみんな吾儕の好伴侶です。如何身躰を用ッたらよいか。何な事をしたなら身躰にわるいかといふ事をよく知つてその準備を忘れず怠らないから、さういふ結果が出來るのです此法が即ち衛生で此會などで諸姉が御熱心なさられる目的なのです。即ち病氣にかゝらぬ內に病氣にかゝらない準備をするのといくら病氣がヤッて來ても差支ないといふやうに用心をするのか眞正の衛生です。病氣を治すといふ事よりも病氣にかゝらない工風をするのが肝腎です。衛生と申すのは卵子をすゝり牛乳をのみ溫泉、海水浴、といふやうに出かけるのが能でありません。それならば金持てなければ衛生が實行されぬ譯になる。そこが神樣です。金が無くッても衛生をよく守れば衛生を守らぬ富者にまさり、虛弱人でも養生の道に叶へば長く生きて仕事が澤山てきます。それてすから此衛生といふ事は金のある人も無い人も誰でも出來る事で共通物です。丁度太陽の光や熱や若くは空氣が貧富の隔をせぬと同じ事です。

衛生といふ事を理論ポク述べると二つになります。二つと申すのは誰でも自分々々で出來る衛生、今の詞で申せば個人衛生、これが一つてす次は大勢の人が一致してやらんければ出來ない共同的の衛生、たとへて申せば下水の始末とか水道とか火葬場とか、墓地とか……の様にせひ多勢一致してやるべき衛生即ち公衆衛生てす。

しかし二つにわけてお話しては學校のお講釋の

やうになつて面白くないですからマゼコゼにお話しする積りです。しかし又マゼコゼとばかり申してはお分り苦いだらうし又感じかたも少ないだらうと思ひまして二つの欄を設けました。』その一つは時節に關係して必用な衛生てす假令ば此頃のやうに「コレラ」の恐があればドウシテ之にかゝらないやうな準備をするかといふ事や又は海水浴に行くか、山に入るかドチラがよいかといふやうな事を主として述べませう。即ち衛生時事といふのがそれてす。

第二の欄は時節には關係無しに心得おくべき衛生。又は小兒の育かたの注意等を申しわげやうと思ッて衛生雜話といふ欄を設けたのてす。』諸姉は此二の場所て衛生といふ事を實行的のものとしてご覧下さい。たゞ講釋だと思つて下すッては困ります。人はよく口を開けば家庭教育と申しますが、成程そうてす。しかし私は家庭衛生といふ事を申したいのてす。それはいくら學校で先生が汗を流しながら説明するのをお聞きになッても又いくら衛生會の先生達が口の酸くなる程御講釋になッても家庭で衛生が實行されないでは何の功能もありますまい。して家庭の主人公は誰人かと申せば、申す迄もない家政を司ッてをる諸姉でしよう、お兒供をお育になるべき諸姉でしよう。それですから諸姉が率先して家庭衛生を御奬勵になり御實行になり御監督になり此衛生會の旨意が眞正に行はれるやうにいたしたいものです。』



醫學士　久保猪之吉

●臺所衛生。

諸姉もお氣がお附きでしようが他人の家の臺所を拜

見すれば直ぐとその家の衛生法が何處迄行き屆いてをるかといふ事が分ります。いくら門に清潔社の札が張ッてあッても塀に石灰を白く打掛けてあッても臺所がしだらなく亂れ不潔になッてをッては駄目です。何故と申せば、食物の料理も、食器の掃除も臺所でやりますから、つまり臺所が家庭衛生の本源てす。臺所衛生には色々ありますがだん／＼申しあげる事として、今回は食器の掃除といふことを申しましよう。

●食器の掃除

宿屋へ泊ッた方や、下宿やに籠城なさッた方や、又は寄宿舍の御飯をめし上ッた方は、よく御存知てしよう。若し、その仲間の客に肺結核の患者か、梅毒の患者があッた時誰の食器とも附かない共通物で御馳走を出されたならば何てしよう？、誰がそのまゝ安心して食べましよう。必ずやその女中を呼てきゝ糺すか自らその食器を洗ひ直してたべるのでありましよう。一層氣の附く人ならば他人の洗ッたのには滿足しない、穢い氣がして食べられない。殊に流行病のはやる時などは、洗ひ方の粗躁な事なども氣が附きましよう。所が自分の家で使ッて居る食器なら割合に安心が出來る又自分の家で洗ッたものであれば無責任な宿や、下宿などのとは譯が違ッて氣持がよい。しかし、諸姉よく考へて御覽なさい、もしも女中に任せきりにして搆はないとしたならばどーてしやう。女中をやるやうなものは衛生といふ事の眞意を知らない、否立派な家庭の奥樣でも随分間違た考を持ッて居らるゝ方もある、又女中は家の人でないから家庭の事に利害が淺い。だから家の人の心配するほど心配はしてくれない。そーいふ人々に安心して任せておかれましようか？ それならばかの宿やか下宿屋の臺所と相去る事遠からずと申さねばならない。しかるに、諸姉が御自身臺所へ御出馬なされ御監督なさッたならば女中等も無責任の事は出來ますまい。

さて食器を洗ふにはドーしたならよいかといふに勿

輪洗ふには違ひ無いが不潔の水で洗ふのは劍呑てある。諸姉の中には新潟の方もありましよう。新潟と申す所は信濃川の水を、縱横に引いて街の内に橋の多いことは大阪のやうです。しかしその溝皆小さく小舟を一つ二つ棹さす位のものです。所がその溝で町内の人々は米も磨げば、お飯櫃も洗へば、膳も椀も洗ッてをる。すると上流からは汚穢屋が肥桶を積み野菜を載せて下てくる。そして呼聲をして行歩くそーいふ風ですから此町では殆ど衞生といふ事を話せない。東京などでも表道をあるくとよく往來の人が小便をやる小さな川で鍋等を洗ッてをる所があるがあれは實に危險千萬てある。

汲おきの水て食器を洗ふのもわるい。又安心のできない河水や、井戸の水やで洗ふのもおそろしい。近來では飲み水に生水を飲む人は少いが食器を洗ふ事を何とも思はない人は甚だ多い。實際飲もの自身よりも氣の附かない食器がこわい。その理由を申せば食器は食物が直接にふれ、口が直ぐに附く品物てすそれてすから食器に黴菌が無數附いてをッたならば吾々は切角消毒した食物を黴菌て包み、黴菌をねぶると同じでしよう。若しも食器を洗ふ水が目に見えない黴菌の澤山を含んでをッたならば食器が黴菌の衣で包まれると同じです。いくら拭巾でふいても駄目です。それは丁度椽に痰を吐きかけてそれを靴でこすると同じてすから矢張穢いです。……こわいです。警視廳からの「コレラ」病豫防の注意にも見えた通り食器は一度煮え立ッた湯又は水て洗へといふのはそこてす。黴菌はドンナのでも熱にあへば直に死ぬべきです。例へば極抵抗が强い脾脱疽菌でも—是は抵抗の强い皮を被ッて居る黴菌て外科手術などの消毒に標準となるものです。即ち此黴菌が死ねばドンナ黴菌でも皆死ぬといふのです——沸騰して居る湯の中ては二分間も經たずに死にます。その他の病氣を起す黴菌類は一秒か五秒も經てば死ンでしまう。それてすから湯へ漬すといふことは安心な消毒法てす。一度煮立た水で洗ふといふ事はそれに次

ぐものでしよう。それて私が思ふに從來病者などの食器は灰をぬッて磨くといふやうなのが日本の習慣でしたがいくら灰て磨ても、水て洗ッても殘ッて居る黴菌は死なない。それよりか一寸沸騰した湯へひたした方が遙かによい。普通の食器を洗ふのもそーです。あたりまへの水は何が這入ッて居るか分らない。又一度沸騰した水も少しさめて來れば又放てお けば何が混るか分らない。それて一番安全なのは水て一度洗ッて大きな汚れを取ッた後沸え立ッた湯をかけるか湯の中へ入れて、奇麗にふくのがよろしい又私の理想ては次のやうにしたがよかろーと思ふ即ち食事の時は火鉢に鐵瓶を側におき、飯を盛る前に一寸湯の中にひたし乾いた布てふくのです。又箸も同じ事です。銀か洋銀かの箸なら最も妙であろーそれを食事の前に湯へひたして用ゐるのです。こうすれば食器の消毒は申し分無いでしよう。

●簪の話、

此處て簪と申すのは白薔薇や菊の花やの如き束髮にさすものをいふのでありません、又簪の形や、模樣や、又は品などを論じやうとおもふのでもありません。唯簪が衛生と何の點に於て關係あるか又如何なる點に於て危險の場合があるかといふ事をお話しましやう。

簪は御婦人の頭に欠くべからざる裝飾品ですから女とある人は子供ても老婦ても簪をさして居ます。しかるに簪と申すものは其先端に耳搔といふものを持ッてましやう、此耳搔が衛生の方と……殊に私共の專門にして居る耳の病氣と……大關係があるのです。何時から簪といふものに實用的の耳搔といふものがクッ付いたか分りませんが……恐らくは耳搔が源で後に飾となッたのでしやう。丁度櫛といふものが今ては裝飾品として頭髮にさしますが元は髮をくしけづるといふ實用的のものに相違ない……耳搔が簪の一功用たる事は爭はれません。

耳搔は字の如く耳……委しく申せば外聽道……のかゆい時やクスグッたい時や又は耵聹、異物が這

入ッた時に掻いて之を除くものです。しかるに簪は御婦人方の身邊に始終ついて居るものですから一寸之を使ひやすいのです。それが又容易く危險を來しやすいわけなのです。私が之迄經驗した危險な御話を諸姉の御參考に申しませう。

その前一寸御話ししたいのは、それなら耳掻でドンナ危險な事がくるかといふ事です。それには色々ありますが、傷害をつけるか、耳掻が耳の中で折るかの二つが大切です。

先づ耳の中即ち外聽道の中で折る事からお話ししましやう、耳掻で折れやすいのは、ガラス製の簪と角や骨で拵ッたものです。簪で無くとも縁日などで賣ッて居る耳掻でも同じ事です。そういふもので耳を掻いてをる時人がしらずに突き當るか又は無理な掻き方をすると先が折れます。折れたなりにおけばよいが、それを取らうとあせると失敗する。殊に専門で無い醫者サン等は直ぐに挾み出さうとする。すると耳掻の先は益ふかくに進む。血はでる。物は見えぬ。といふ風になり、つひ〲鼓膜に孔をあけ、耳だれを發し、腦膜炎をも發すやうになります。餘程前の話ですが一人の奧サンが「ガラス」の耳掻で耳をいぢッて居るに、耳掻の先頭がとれて耳へおちた。するとおどろいて方々のお醫者サンを訪ねた所が、わるくいぢられてトードー耳掻で鼓膜を破つて中へ押し入れました。かうなればとても耳の孔から取り出す譯に參らない。その患者は入院の上、頭骨をたちわつてその「ガラス」耳掻をとり出しました。されどその命は助からないで、腦膜炎の爲め無慘な死をとげました。是などは耳掻の先頭一つで貴重の一命を失つたものです。」

それから外聽道に疵がつけばドーかと申すとその疵からきたないものが這りオ腫物を作るのです。その爲めに耳の内が腫あがり頭痛がする、口が開けないねむられない。といふやうにいろ〲の苦痛を來します。若膿が早く破れて出る事が出來ない時は腦の方へも進めば、頸の方へも進んで重大な病氣に變じ

ます。かやうな病人はよくある所ですから簪を御所持の方は御注意なさるがよろしい。」

終りに簪や耳搔の先頭で鼓膜を衝き破る例は澤山あります。私が近日經驗しました婦人の事をお話いたしましやう。四十歳ばかりの婦人でしたが、夜中に便所に參り暗所を手さぐりながら歸つて來る時、耳が非常に痒かッた。そこで婦人は例の簪をとッてかきながら縁側を傳ッて參た所が曲り角の柱に簪の根を突き當てた爲、驚いて眼が醒めた。その時は旣に簪の先頭が鼓膜を破ッて内に這入り流血點々頸に垂ッて居りました。何と危い話ではありませんか。」

又こー云ふ例もあります。これは廿幾歳といふ盛りの婦人でした。矢張夜ねむい時赤兒に乳をやりながら横に臥て居ッた。所が前の婦人と同じ樣に耳がかゆかッた爲め、傍に在ッた火鉢の火箸をとり耳の内を弄ッた、そのなりしばし眠ッたのが閊て火箸が耳の内に突き通ッた。あくる日匆々大學の外來に來て我々の厄介になッた人があります。

此のやうに簪は思ひがけ無い禍を招くものですから、耳搔附の簪や耳搔のたぐひを御用ゐになる方は注意の上に注意をせなけりやなりません。ですから眠い時、耳搔を使ふ事は大禁物。次にかけやすい「ガラス」や角を用ゐる事も禁物、その次にきたないもので傷けた時は危險ですから、金屬で作ッたものであまり尖らないものを一度湯か火で消毒しそれから用ゐるやうにするがよい。耳のかゆいのをかくか耳の内をコスグるといふ事は一種の催眠術で、諸姉顔剃が耳の内をいぢる時眠氣を催すのを御存知でしやう。そーいふ風に眠くない時やッても眠くなるのですから、耳の内をイヂる時はクレ〴〵も注意せなければなりません。簪のお話はコレでやめます。次回も何か諸姉に關係の深い事を考へて御話いたしましやう。

●箴言

養生の道なければ生れつきつよく。わかくさかんなる人も。天年をたもたずして、早世する人多し。是天のなせる禍にあらず

みづからなせる禍なり。天年とはいひ難し。つよき人は、つよきかたのみてつゝしまざる故に、よわき人よりかへつて早く死す。又體氣よわく飲食すくなく、常に病多くして、短命ならんと思ふ人かへつて、長生する人多し。是よわきをおそれてつゝしむによれり。この故に命の長短は身の强弱によらず、愼と不愼とによれり。白樂天が語に、福と禍とは愼しむと愼しまざるにありといへるが如し。（養生訓）

質疑欄

●●●●質問注意　質問小診察せざれば應答し難きものは答解の限りにあらず候答解に遲速あるは答解者取調の都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なし●本誌の雜誌に登載する分は前月十五日迄に申込まれしものとす●本欄は醫學士米山彥郎氏重もに擔當せらるゝると雖も又博士學士の說をも登載するものとす

問　　質問者　九州　一會員

私事生來口より呼吸する習慣有之候處或友人より口より呼吸するは衞生上有害なりとの忠告を受け候が如何なる害有之候や御敎示願上候

答　　答解者　本會審事員　Dr. H. Y.

呼吸は生理的には口腔を閉し、鼻腔よりするが常道です即ち吸氣は鼻口より鼻腔に入り鼻道を迂曲し鼻咽腔を通過し喉頭腔を經て氣管、氣管枝、遂に肺の氣胞中に入るのです、

以上の如く鼻道を通するときは次の如き自然の利益があります、

(1)鼻道は迂回せる長き道故之を通過する際には空氣は躰の溫度によりて溫められ吸呼壁を冷やすを避けます之に反し口腔より呼吸するときは冷かなる空氣は直ちに咽頭壁を刺戟し容易に咽喉加答兒等を惹起す憂があります、寒國の方は御承知でもありましようが冬日の寒氣は齒を刺戟し到底口より吸入することとは出來ませぬ、

(2)には鼻腔壁の粘膜より分泌せらるゝ鼻汁によりて乾燥せる空氣は水分を與ひ適度の濕氣を帶び從て乾燥したる空氣の直ちに肺面を刺戟することを防ぎます、此濕氣を奪ふことは口より呼吸するときには著しく口中の乾くのでもしれます、

(3)には鼻腔の入口には鼻毛があり、鼻腔壁の粘膜より絶へず粘液を分泌する故に吸氣に混ぜる塵埃は

先つ此鼻毛によりてこされ、又細微の虫類などの氣道に侵入するを防きます（此故に床屋にて鼻毛を剃りとることは有害無益です）猶ほ餘りの塵埃は粘膜に附着し肺に入る空氣は清淨となります、而して粘液に混したるものは粘膜の上面を被へる纖毛上皮と申す一種有毛の細胞の作用にて其毛の絶へす鼻口の方に動く運動によりて漸次躰外に排出せられます彼の鼻汁の色着きて出るは此為てす、又一つには鼻の分泌物は一種多くの黴菌に向ひて有害なる性質がありまして其為めに黴菌の躰内に入るを防く作用があります、

(4)には鼻腔には嗅覺がありますから、有害の瓦斯等吸氣に混同せる場合には先つ之を嗅き分け避けると云ふ作用があります、

以上種々の點より口より呼吸することは有害なれば直ちに其習慣を破られん事を望みます、

質問者　大分　青井竹田中學敎諭

問　拜啓仕候先日は眼科のことに付き御教示を願ひ出申候ところ早速詳細なる點まで御懇篤御報被下難有奉謝候小生硝子躰溷濁にかゝり困難まかり在り候が右眼病の治療法は現今のところいかなる法が最も行はれ居り候にやまた攝生法はいかゞいたさばよろしきにや當地は山間の地にて誠に不便利にて尋ぬへき醫もなく困却致し居り候右の眼病についての件何にても御知らせ被下候はゝ誠に難有仕合せに存候

答解者　本會審事員

答　御質問には硝子躰の溷濁になやまるゝ由元來此病氣の大躰を申述ぶれば其自覺症狀としては硝子躰の溷濁の細微のもの一面に存すれば、眼の前に烟か霧の如きものが見え、又少しく大なる濁りなれば眼球の動くにつれて蚊の飛ぶ樣に黯點が目の前にちらつきて見えます、而して視力は多少に限らず障害せられ、其多きときは咫尺も辨ぜられぬ程にも至り、やがては烏羽玉の暗にさまよう悲境にも陷り患者自身にとられては容易ならぬことゝなります、併し普

通の人にても少しは眼の前に蚊の飛ぶ如き像か見えることがあります、之は生理的の飛蚊と申しまして、其像の形は糸の如く連珠の如く又圓球のこともあります、ときとして靑空を眺めておるときに、偶然發見し失明の前兆と思ひ大に愁かるゝ方がありますが視力に差支のなき限りは害てはありませぬ、特に近眼の人の視力の疲れたるときに多くあります、扨て治療法の御質問ですが、之は全身病の結果のことが多くありますから、之には全身療法として沃度劑を用ゐます、即ち普通沃度加里（一名沃剝）及ひ水銀劑を用ゐらるゝが適當です、其處方は次の如し、

(1) 沃度加里　一、〇（二分六厘六毛餘）
苦味丁幾　二、〇
單舍利別　七、〇
蒸餾水　一〇〇、〇
右混合一日三回食後分服

(2) 撒里矢兒酸汞丸　〇、〇三
右爲丸藥一日三回分服

或は
昇汞丸　〇、〇〇六
右爲丸藥一日三回分服す

此藥品にて追々溷濁も吸收せられます、併し新らしきものは特別ですが、概して頑固ですから宜しく持長して見ることが必要です、且つ此等の藥品は劇藥ですから種々弊害もあることとなれば、相當の醫師につき時々診察をこひ調劑を願はねばなりませぬ、

質問者　越後會員　樋口つや子

問　私の一友昨年六月より眼病に罹り七月下旬より右眼の黒目角膜炎となり八月より二百倍の黄降汞華摂林にて九ヶ月間治療致し爲に曇も取れ血脈も見へざる樣に相成候へども今に少しの痛ありてまぶた閉じらるゝ如き心地いたし又左眼も昨年六月より病を生じ今年一月に至り實にかくまく炎を起し今月まで頓て五ヶ月間餘り右眼と同樣の治療いたし居候に右眼に比してははかばか敷はかどり不申如何にせば全治し得べきものに候や●黄降汞華摂林藥にて治療致せば非常に痛みを覺へ候が斯る刺撃をいたしても故障御坐なく候やカンコ（白粉のもの）にて治療致せば刺撃は無之候が右の內何れが宜敷候や●今年三月發行貴雜誌にアドナリン藥を眼に用ゆれば効を呈すと御示し有之候が斯る眼病にも有効に候や又此藥は高價の藥品のよし田舍にては求め難く存候が何處より求め得らるべく候や●斯る眼病は如何なる原因より發生し候や又全治し得らるべき事に候や右甚だ御面倒に候へども逐一御教示を仰ぎ申度

此段懇願致し候

答解者　本會幹事員

答　御質問には黑目角膜炎にかゝりとありますが角膜炎と申すは眼球の前面にある前の方に彎曲せる透明なる膜の焮衝でありまして、虹彩即ち黑目には少しも關係はありませぬ、此病氣は透明なる膜が不透明となるので、經過の仕方に二樣あります、

甲は一ヶ所に限局性に起り、終始同一大のとがあります、乙は蔓延性で多くの周圍より全般に擴がり、終には角膜一面が磨擦硝子の樣になることがあります、私共の多く見るものは此蔓延性の方です、而して御質問中には血管云々のことがありましたが、此病氣は多少にまれ周圍に充血のあるのが常です、

次に一寸病狀を申せば眼界の不明となるは勿論其外に流涙、羞明、痛等を起します、又其外に色々な併發症が起り危險のことが多くあります、此等のことは專門に渉りますから茲には略しておきます、

全治するや否やとの御問ひですが輕きは溷濁は全然消失しますが、甚だしきときには多少のこります、

そこで其の經過は大抵半年位から一二年位に亘ります、概して申せば、隨分夥だしきものでも永き年月を經るときは追々に薄くなり終には殆んど常態に復することが多くあります、然し重症にありては多少濁りを殘し又は合併症の爲めに失明するとがありますから呉々注意せねばなりませぬ、

○○源因としては、先天性梅毒即ち生來母体より受け來りし遺傳の梅毒が尤も多き樣です、其他外傷などにつゞきて來るともあります、又腺病質の弱き小兒などが之に惱むとがあります、

療法には局所療法と全身療法とを施こさねばなりません、

局部には先づ單に微温罨法を施し、「アトロピン」を點眼して虹彩の(レンス)と癒着するを防ぎおくのです、之は一日一回點眼するのです、若しも血管の或一部より侵入するときには周擁切除術とて眼科醫より角膜の周邊に刀にて切目を入れ血管の侵入を防が

せねばなりませぬ、次に炎症も減じ充血も消散した
る場合に濁りの吸收する樣に黄降汞「ワゼリン」又は
甘汞末を用ゐ傍ら每三日乃至四日目に眼瞼の上より
輕く角膜面を拇指にて壓しつゝ輪狀に撫擦し（大凡
一二分）自然の吸收を幇助するがよくわります、而
して甘汞末の方が刺戟が少なくありますが刺戟はあ
りても差支ありませぬ、
治療中は可成身體及眼を安靜にし、光の刺戟せぬ樣
に眼鏡を用ゐ、通じは規則正しくなしおかねばなり
ませぬ、
痛みの强き場合には次の如き藥を點眼します、

コカイン　〇、一
淨　水　五、〇（痛のとき點眼）

又は

莨菪越幾斯　一、〇
灰白軟膏　一〇、〇（額部又は顳顬部に塗擦す）

全身の療法としては撒里矢兒酸汞丸を一日三粒より
五粒位を用ゐ、同時に沃剝を內服するのです又腺病
質の人には肝油など與へ全身を强壯にするよに注意
せねばなりませぬ、
（アドレナリン）は充血等甚だしき際には其充血を去
る爲に用ゐて差支へありませぬが特別に此病氣に用
ゐる程のものでござりませぬ、
先づ大體以上を參考せられ醫師の命令に從ひ忍耐に
て治療せられなば全治の望みなしとは限りませぬ、

病むとてもあまりやまひに恐るゝな　氣で氣なやめばやまひ重らん
手輕しと醫者や藥によらずして　非業に死ぬる人は天罰

衞生時事

●「コレラ」は恐るべきか

醫學士　久保猪之吉

諸姊に前號で御話し申した通り時節に關係する衞生
の事を此欄て主に述べましやう。一體申せば衞生と
いふ事に此は夏、此は冬と二種も三種もある譯で無
い、唯一つの規則を誤り無く守ッていけばそれてよ
ろしい。暑くッても寒くッても活用が出來る譯です。
しかし人といふものはその時に臨んて注意せられな

けりや氣がつかず、又忘れる。「コレラ」が來てから「コレラ」の話をするのは、盜賊を見て繩を糾るやうなものですが、これまた弱點を有て居る人間にはやむをえません。』

當節誰でも口を開けば「コレラ」の話です。警察署の注意もソーです。尤も選擧競爭のさわぎは別です。

私が此處に『「コレラ」は恐るべきか』と申すと何だか狂氣ジミてをりますが、實際「コレラ」は多數の人々が恐れて居る程おそろしいもので無い。例へば火事で申しましやうか。なる程火事といふものはコワイが、若煉瓦作りて離れた場所に建ち、その上、內の火の用心が屆いて居ればイクラ近所に火事が起ッて火の子が少し位飛で來ても平氣です。「コレラ」病も同じやうです。「コレラ」病者を隔離してさけるのは丁度家の周りが廣いやうなものです。建築の丈夫て火に耐へるのは、衞生養生の法を守ッて身躰を丈夫に鍛え、抵抗を強くするのと同じです、次に食傷や不養生やをせずに要心していくのは內から火を出さぬやうにするやうなものです。そうすれば決して「コレラ」や霍亂にかゝッて死ぬものでない。今度の「コレラ」(類似でもよろしい)にかゝッた人々を見ると皆此規則に背て居るからです、殊に自分で火事を出す質のものが多い。そーいふ風に拒げば拒げる。それゆゑ「コレラ」はサホド恐るべきものでは無いと申したいのです。』

●「コレラ」にかゝッた人々

前車の覆へるを見て後の車を戒めよといふ事があります。まことにソーです。コー爲なけりやコーなるぞと責められるよりは、コーしたから、コー成ッたぞと諭さるゝ方が利き目があるものです。それだから私は諸姉にコーいふものを食べてはイケマセンとは申しますまい。唯。コーいふものを食べて、コーいふ風にやッた人は直に「コレラ」に取り付かれましたと申しましやう。

また私が高等學校……今も駒込に時計臺の時計がよく狂つて居るあの煉瓦作りの學校……に在學た

時分です。よく勉强せられた有爲の學生が二名「コレラ」で死なッたのを覺えて居ます。多分明治廿七年頃「コレラ」大流行の時です。その二人とも助かりませんでした、甲のかゝッたのは門前近くの氷やで氷に「ラムネ」と腹一パイ飲でおそばを食べたそのあけがたから下痢を始めた。それが高等學校の寄宿舍て起こッたのですから大騒ぎでした。乙の方は自炊てあッたが、その日舊藩主の園遊會に招れてその夜發ッたのです。ドーいふものを飲食したかと聞くと、園遊會の事ですからアチラの東屋にはお鮨、おでん。コチラの庭には鰻に酒。ソコには果物。コヽには天プラ。といふやうに種々雜多のものがあッて、青年の常として飲食にもまけじ魂を振ひ起し大ひに平げて歸られたッーです。所がその夜の明け方近く度々便所に通ッたあけてみると、本人は腰がぬけて立たれず、友人が見れば病人の顔面は丸で肉落ち色失せ昨夜の面かげが無かッたッーナ。よく聞くと二三十回も便所に通つたとの事でありました。時節からであッて警官の出張。駒込避病院へ送致。交通遮斷。となッてその友人は駒込の避病院で死くなッた。あの裏手の門から出棺して、夕日が斜にさす、葉がくれの動坂を日暮里へと下ッた時は忘れにくい。今も目に見えてゾッとする。

今度の類似「コレラ」でもゴランなさい。三例ばかりあげてみましやう。(一)淺草の人でアサリの汁を吸ひ「トロヽ」昆布を食べて病にかゝつたのがある。(二)下谷の輕子業……「かるこ」といふのは面白い詞です　大層優美ですが、實は九段坂の下や、富坂の下に薦一枚を褥とし日中でも雨天でも立ッて居ッて、車を見ればすぐにかけて來る立ん坊の事です：……某といふもの古い煮豆と惡酒をやッて病にかゝッたといふ事です。(三)本郷の某といふ人は「コレラ」の疑で駒込送りとなッたがその原因は鮭の鹽燒と胡瓜揉と豆腐とを食べた後に來たといふ事です。このやうに種々不養生とおもはるゝ事が分ッて居る人が多い。中に不養生をしても幸ひに「コレラ」的の

ものにかゝらない人がある。しかしその爲めに是迄御話した事柄を打消す譯には參らない。なぜと申せば前にお話した火事と同じ事で、堅牢な家は燒けのこる事がありますから。

●飲食の會合は見合すべし

前の例にも見えましたやうに園遊會――日本でやる現今の――のやうなものは夏の流行病等がある時は廢めたがよいとおもふのです。出なくつてもよろしいとおもふ。園遊會といへば飲食會と客人も解し、主人も承知する。ですから、ゴ馳走とおもふものをゴテ〳〵出して客にすゝめる。客もゴ馳走を食べに行くと思ッて夕食も食べずに腹をすかして出かけるといふのが今の眞相です、現今のやうに流行病のある時などは、その流行を助ける媒介となるだろうとは誰も推察が出來るでしやう。それでもし人を招がうと思ふ時は成るべくなら外の事でとりかへ、ぜひの時は西洋流に規則正しく食事丈にすまし、あとは雜談か遊戲を主とする方がよろしい。無趣味な飲食會は以ての外である。』

所が、日本の田舍などへいくとおどろいたものである。腐りやすい豆腐の汁や南瓜の煮もの、古い煮魚などで村中の人を集め夜のふける迄酒もりをして居る事が度々ある、例へばお盆、お節句、お祭、お葬式などのやうなものは皆ソーです。高尚な樂みを知らないものは誠に止むをえませんが、時節柄コンナ習慣を守るのは極めてわるい。それで私、此頃、母の不幸で國へかへり、國で葬式をやりました。しかるに土地の風習として葬式の日にも一七日の日にも人を集め手前料理で酒を出すといふ事です、私大に困り之をやめにしようとおもひました所が、土地の習慣であッてみれば、鄕に入つては鄕に從へといふ說もありましたが、學問をしてをる人がわるい習慣を知つて從ふ事は出來ない、わるいものは氣の付いた人が直さなくッて何時、誰が直しましやうと申し、遂に酒盛の事はヤメといたし他の品物を贈る事にやり通しました、葬式に酒盛といふ事のよしあしは別

としても、時節柄多人數集ッて不規律の飲食をやるのは醫者としてトテモ出來ないといふのが一つの理由てした。ところが町の人々も大に悦ばれて、一人の怪我も無く無事に濟みました。」

孟子曰はく口腹の慾にひかれて、道理を忘れ、只のみくひわきみたん事をこのみて腹ばりいたみ病となり酒にゑひて亂に及ぶは、むげにいやしむべし

看護法

普通看護法（二十三）

醫學士　米山彥郎

●消毒劑及び防腐劑製法（續き）

½%クレオリン（二百倍）

製法、水一リートル（五合五勺强）に一食匙の「クレオリン」を加ふべし、

凡て此等の溶液を製するには好んで蒸餾水、若くは新たに沸騰したる水を用ゐます、

併し吾々の經驗によれば、完全なる水道の水なれば其儘用ゐても殆んど差支なき樣てす、只萬止むを得ざる場合にのみ普通の井水又は泉水を用ゐます、

扨て溶液を作るには先以て消毒藥を容器に入れ次に水を加へ平等に溶解する爲めに攪拌し又は震盪せねばなりません、

病院等多量に用ゐる所にては十（リートル）も容る丶大瓶によく擦り合せたる硝子栓又は綿球を以て密閉しおきます此際コルク栓を用ゐるのは元來此コルクは充分に消毒すること難き故不適當です、

消毒劑は概して劇藥でありますから、注意して貯蓄しおき又用ゐるに當りては一々其標札を見て誤りの生せぬ樣呉々も注意せねばなりません、病院杯にては標札を用ゐる代りに消毒劑の種類によりて異なりたる着色をなし一目して其何たるを知らしむることが最も便利です、

此藥品の着色には少量の（カルシン）又は（アニリン）等の赤き色素を用ゐます、

現今は昔と異り無暗に傷面を洗ふとは可成避ます、且又洗傷するには石炭酸、昇汞、リゾール、抔の毒

藥を用ゐるよりは、寧ろ沸騰したる湯に3/4%の割即ち百グラムにつき〇、六の割合に食鹽を加へ製したる水にて洗ふを適當とします、病院又は手術室に於ては前述の無菌食鹽水をば多量に用ゐる故消毒鑵の裝置によりて一時に多量を製します其裝置の大容を申せば一の大なる金屬製の鑵中に前述の割合に食鹽を加へたる水を入れ瓦斯燈又は蒸氣によりて少なくも五分間沸騰せしめ、次に金屬製管によりて其湯を冷水中を螺線狀に通過せしめ冷却するのです、

創傷の治療に向ひては、以上連記したる藥品の外に種々用ひられます、其内主なるものを申上ぐれば大躰次の如きものです、

（ベンチン）之は皮膚を清淨にする爲に用ゐらるゝものにて、揮發性のものなれば密閉して貯へねばなりません、

（無水酒精）之は手術に用ゐる縫合糸、護謨管、カテーテル等を貯ふるに用ゐます、之も揮發性のものなれば注意して貯へねばなりませぬ、

中外彙報

●コレラ豫防液注射の實驗

今回内務省所管血清藥院から東京府廳に到達したコレラ豫防液注射の反應を實驗せんため衞生の事に關係ある市吏某は先つこれが注射を受けしといふ、注射の前大村醫學士は豫じめ氏に向かひ注射當日は入浴、飲酒、過度の運動は避くる樣にとの注意を與へた、委細承知と袒裼になると岩城撿疫官は氏の背後に廻つてアルコールに浸したがーゼを以て左の肩胛部（けんびきの所）を摩り注射器も二十倍の石炭酸水で丁寧に洗ひ更に二百倍の石炭酸水で又候洗滌して其注射器に豫防液を含ませた、先刻よりどんな事をするのかと思つて待つて居ると軈て注射器の針を斜にして左の肩胛郎の皮下へ深く注射したが其時の感じは蟻か何かに一寸螫された如くあつた夫から針の痕を再びアルコールに浸したがーゼもて拭はれた

が其施術は種痘を接種すると同様で極て簡短な者であつた、而して其反應を略述すれば左の如くである注射したのは午前十一時であつたが同日午後四時頃から頗に渇を覺えたので茶を澤山飲んだがなか〳〵渇が止まなかつた、又試みに左手を上下して見るに肩胛部が少しく痛む樣であつた、夫れから同七時に至ると感冒の兆候の如く後頭部から襟の邊が熱くなつて左右の顳顬が痛む樣であつたが別に氣にかゝる程でもない、それから晩飯を喫したところ食慾は平生と變らない同夜は十時頃就眠したが翌日午前七時に起きた時は平生の氣分と少しも變らない、そこで十一時までは新聞を看たり讀書をして家居したが大村醫學士の注意は始終守つた從來コレラ豫防液の注射については多少疑つて居たが今回の實驗で果して學説の信なるとを確めたこれて一年間免疫とは實以て有難き仕合といはざるを得ない云々（毎日新聞）

●内務省の豫防液接種　内務省にては各局課員及び給仕小丁に至る迄血清藥院より北島技師出張の上コレラ豫防液接種を行ひたりといふ

●催眠術と兒童の矯弊　哲學博士の山口三之助と云へる人は過日帝國教育會に於て題の如き演説を爲した其兒童研究に就きて種々の癖を擧け尚曰く▲小兒の恐がるのは第一が動物で第二が雷電の如き自然界の現象で、第三が暗い處である、惡癖匡正でも臆病の矯め直しでも其の原因を尋ねて原因療法をやれば直らぬと云ふ事はない、意地惡い事の原因は食物に干係があるさうで小供に肉類を喰すと怒りつぽく成ると云ふ事は有力な説である、臆病と云ふ事は遺傳にもあるが精神衰弱から來るもの、親の嚴し過ぎる仕付から來るもの、智識の足らないとから來るもの、驗經に依て然るもの等種々ある▲昆虫鳥魚の類を踏みにじつたり八裂きにしたりすること、強情にして人の云ふ事を一向に聞き入れぬと云ふ事は腕白小僧に於て克く認めらるゝ例であるが其の原因を搜つて見ると多くは兩親の不注意のため此等兒童の

同情と云ふ念が發育して居らぬからである云々

●一家五人の啞　宮城縣登米郡吉田村なる吉田捨之助と云へる人は土地にては中等の財産家なるが六人の子供はあれとも只五人目の女の子を除く外は揃ひもそろひ啞にして常に悲嘆に暮れ居る由なるが實に左もありなん然るに其原因とも覺ゆるは夫の捨之助と妻とは從姪なれは是ぞ醫學社會に八釜しき血族の結婚の結果なるべし是を聞くに付けても從姪同志の結婚は謹むべきことなり

●虎列拉實驗談中の一片　山根警察醫長談片は相變らず面白い

前略斯の如く傳染病が世に速かに蔓延するといふ事に對しては如何なる原因があるか其原因に就て一々お話しをして見ませう、コノ傳染病の流行する原因は何んであるかといふと一般の人民の智識、衛生の程度が卑いのであります、衛生の智識が全で頭に無い人民に對しては實に傳染病は威を逞しうするのである、御覽なさい人は飲食物に於ては用心をしなけりやア成らんとか云ふても其用心をしない者が往々ある、譬へば今一人の婦人が下女に向つて「お前は勿躰ない事を知らぬから行けぬ、此喰物はプンと臭いこそするが未だ腐つては居ぬのだから喰べてお仕舞なさい食物を粗末にすると罰が當るから……」斯ふ云つて喰べさして終にコレラに罹つて勿躰ない命までを捨て仕舞うやうな十九世紀的の人物が未だ多いのである。

●吐瀉病救急處置　腹が痛み吐いたり下したりしたときは都會の地なれば早速醫者も間に合べけれども山間僻地ては醫者の來る迄の手當を知らねはならぬ若しも吐き下し劇しく身躰冷へ渡り益々衰弱に陷るようであるときは辛子を熱湯に交ぜて腰湯をつかわせ白木綿半反位にて胸から膝の邊まて固く卷き仰向に臥さしめ胸より上は出してアトハ足の部迄蒲團を以て包み一升德利にても熱湯を入れ堅く栓をなし之を寢床の中に入れ又飯に鹽をまぜ煮たる熱きものを布に包み臍の上に載すべしかくすれは凡二三時間た

つときは身体温まりて發汗し漸次氣力を恢復することを得べし此時渇きを覺えたらば番茶位は呑むも差支なし而して醫者の來るを待つをよろしとすコレはコレラ流行時に實驗して効力のありしことなりき

●虎列剌豫防液の缺乏　各地方々通じ昨今眞性虎列剌或は疑似患者續發の現狀なるより豫防液及血精交附の義各地方廳或は監獄或は會社工場等より内務省に請求し來る趣きなるが今日迄に血精藥院より送附せる數量は佐賀縣の豫防液六萬人分血精三十人分、司法省へ監獄用として同液二千八百二十人分血精十五人分、福岡縣へ十萬人分、山口縣へ同七萬二百八十人分、長崎縣へ同一萬六千七百二十人分、神奈川縣へ同二十人分、東京市へ同一萬八千八十人分、熊本縣へ同一萬千三百二十人分、大阪監獄へ同三千人分、大分縣へ同千五百人分、茨城縣監獄へ二千人分、埼玉縣監獄へ同千三百六十人分等なるが昨今續々其交附方を請求し來たるも品拂底にて大に困難を極め居れりと

●肺結核病黴毒患者取締　内務省に於て最近調査する處に據れば全國各地方に於ける肺結核患者癩病患者及黴毒患者等は年々增加の傾向を呈し又是等患者の療養地即ち各地方に於ける海水浴場其他温泉場等所在地の旅舍飲食店を始め諸工場、各學校其他鐵道の停車場の如き多數人民の輻湊する場所は所謂該患者傳播媒介機關たるの有樣なるに付之れが豫防取締方法に關し過日開會の中央衛生會議に諮問せし結果愈々近日中に勅令を以て該取締規則を發布することに決し其關係各省に對し昨今交渉中なりといふ

●はき物　筒袖の改良服も未だ完全には往かず特に大人迄應用し得ぬことはまことに遺憾なるが兎に角運動し易くなりしをもて先づ長袖よりは宜しとしても筒袖にエビ茶の袴をはくと又ハキ物とかぶり物が改良したくなるハキ物は數年前ベルツ氏の言ひたる如く日本のハキ物の如く歩行する度毎に踵とハキ物と離るゝ樣では徒らに勞多くして完全なものとは言

へぬと云ひしはまことに至言なり要するに靴を奨勵することを至當なるべけれ但し靴に限らず苟も運動に便なる又形容のいやしからざるものなればナンでもよいこのごろ市中では男子の支那靴を穿いてゐる者があるがソレは支那人若くは朝鮮人の留學生かもしらぬが必らずしもそうばかりでない現に某省の官吏間には少しく流行の傾があるソレは支那靴は深ゴムなどの靴に比べると穿くにも脱ぐにも輕便で第一普通の靴ほど重くなきゆへ運動用などには極めて心地が好いさうです世界中で「はきもの」は支那が一番進歩して居ると説く人もありますがコレは男女はきものゝ改良に尤も有力なる參考品だろうと思ひます

●虎列剌と赤痢　虎列剌は食物飲料水より發し赤痢は不潔物より發す何れ恐るべきものなれども昨今の處では人皆「コレラ」に重きを置き赤痢の方には左程重きを置かざるもの丶如しと云へども今や赤痢も全國に蔓延しつゝあり東京府下の如きも本年一月一日より同七月末日迄の市部の赤痢患者は百三十四名郡部九十五名又同疑似病患者は市部六十七名郡部六十三名の多きに達せりコレラも都下續發の模樣なるも眞性とては誠に少なく眞性と疑似性との議論は端なく緒方博士と北里博士との論戰となりし程にて東京府下は割合少きは幸福なりといふべし今最近二十ケ年の赤痢患者の統計を見るに我國の赤痢病は最初九州地方及び四國地方に流行し踵て再び九州地方并に四國中國の各地方に蔓延せしのみならず同時に近畿及び本州中部に及び東漸して東北地方に侵入し今や同地方は病勢尤も猖獗を極むるに至れり即ち該病は九州に起りて東漸の勢ひにあるとを知るべし最近廿箇年間の全國赤痢患者は左の如し

卅四年	四九、六三四	卅三年	四六、三三一
卅二年	一〇八、七一三	卅一年	九〇、七九六
三十年	九一、[illegible]七七	廿九年	八五、八七六
廿八年	五二、七一五	廿七年	一五五、一四〇
廿六年	一六七、三〇八	廿五年	七〇、八四二
廿四年	四六、三五三	廿三年	四二、六三三
廿二年	二二、八七三	廿一年	二六、八一五
二十年	‥六、一四九	十九年	二四、三二六
十八年	四七、一八三	十七年	二二、五二四
十六年	二一、一七二	十五年	四、三三〇

●コレラ病患者最近の統計　天候の不順なるにより次第に其勢ひ猛烈に傾くの有樣なり今内務省衞生

局に於ける去七月三十一日調査の眞性患者は左の如しといふ

	初發	患者	死亡
福岡縣	六月廿九日	三四一	一九三
東京府	六月廿六日	四	四
佐賀縣	六月一日	八一	四八
長崎縣	六月十四日	四六	二六
山口縣	七月二十日	二七	一
熊本縣	七月廿一日	五	二
徳島縣	七月廿一日	一	—
京都府	七月廿九日	三	—
總計		五〇八	二七四

本月一日以後の患者に付ては未だ表を調製せざる由なるも本月上旬迄同省に達したる電報に依れば略左の如しと云ふ

大坂府	八月二日	八	四
岡山縣	七月廿九日	二四九	一一四
兵庫縣	七月卅一日	二	一
大分縣	七月卅一日	二	二

右の如くなるも今や新患者二三十名宛増加する所ありといふ内務省よりは夫々技師を派遣し豫防液注射を實施中なり

●傳染病と飲料水　飲料水の傳染病に至大の關係あるは世人の知る所なるも尚等閑に付するものあるを以て警視廳は去九日左の告諭を發して一般に注意を與へたり

本年六月當府下に於て虎列拉患者初發以來既に三十八名(疑似症を含む)に達し加ふるに赤痢腸窒扶斯に罹る者昨年に比すれば更に増加し既に赤痢三百九十二名腸窒扶斯六百八十五名の多きに上れり然るに是等の傳染病は飲料水と至大の關係を有するものなるを以て各自に於て平素飲料水に注意を加ふべきは勿論特に市内に在りては飲用と使用とを問はず可成改良水道水を用ふる樣注意す可し

●爪嚙み病　有名な佛國のドクトル、ベリロンが多年の研究に依ると爪を嚙む癖は全く精神病の一種で、同氏が各所の學校生徒に就いて調査した結果、此病氣に罹る患者は、男生よりも女生の方が多數で或る學校の如きに至ると、全女學生の半ばは此の種の患者で、其の年齢は十二歳から十四歳の者に最も多く、そして此れ等の學生は、最も貧家の女子である事實を確めたといふ

●駒込傳染病院　七月一日に於ける收容患者は僅か六十七名なりしに同月三十一日に至り頓に増加して百九名となり八月に入りて以來は僅々七日間に又百三十名に増加し著るしく増加の傾きを生じたるのみならず例年の統計によるも本月は赤痢患者の増加を見る時節なれば駒込病院は百五十名を收容するに止まるを以て假かに暑熱を減ずるに至らば廣尾傳染

病院を開院の必要ありとて當局者は夫々協議中なりといふ

食物調理法



內外實用料理

●本月は横井氏微恙により原稿〆切迄に間に合わざりし爲め左の二三を物しぬ

●よし野煮

鳥肉をよくたゝきよき程に丸めて麥粉をぬりつけ胡麻油にて揚げたるを又煮出しに味淋醬油にて味をつけて前の鳥肉を煮るなりこれをよき程椀に盛り摺生姜をあしらひて食すべし

●滋狀

鳥肉の滋狀とは衣をかけ煮たるをいふなり其仕方は鳥肉の切たるに麥粉を多量にぬりつけ假きさて薄鍋を炭火にかけ酒を少しいれて煎り酒の如く煮たて附木に火を燃やして酒の中へ火をうつし鍋中火になりたる時湯を少し加ふれば火は消へるなりさて此中へ醬油をよき程に鹽梅し風味あしくば砂糖少しいれ其中へ鳥肉をいれて蓋をなし暫しにて肉をすくいあげ椀に盛り汁をもよき程盛りて山葵のおろしたるをあしらいて食すべし

酒を煮たる分量は大鳥一羽なれは酒半合斗りにてよろし此煮方は汁を少くしてあしらいを用ゐず鳥肉を賞翫する法なりといへども鳥肉を煮あげ其跡の汁を延し狀三つ葉などをあしらひておつ物とすることもあるなり

●たゝき

鳥肉の骨を去りよく庖丁にて敲き鷄卵を割りてかきたてたるを加へよく交ぜ合せてよき程に丸め麥粉をぬりつけ吸ひ物煮物などに用ゐるなり右摺身もたゝきも大鳥一羽なれば鷄卵一個位にてよし

●茄子の龜子燒

茄子を龜子燒きにするには勿論大なるものを撰ばざ

るべからずさて先づ茄子を二ッに割り其表てを賽の目に切り油を塗りて燒くなり其柔らかになりたるを見計ひ皮の方を火にかけ表の方へは豫て作り置けるだし汁を度々注ぎかけて燒くべし其だし汁は味淋と醬油とにて加減をなし鰹魚節をかきて味を付け燒き上りたるときは皿に盛り尚だし汁をかけて膳に上すべし



おまりたる物か吝みていやが上に
食ふは命なしからぬ人

●前置き

一家の主婦は一家の衞生に注意して常に家内に病者なきようにつとむるのが義務でありまして其責任は尤も重いのでありますが萬一不幸にして家内に病人が出來ましたなら早速よき醫者に托して速に快復する樣に看護もせねばならぬことは申す迄もないことでありますが病氣の中でも慢性のものと急性のものとありて何れも皆恐るべきものには違ひありませんが手當の良否によりましては急性の病氣ほどよくなるも悪くなるも早いのはありません此時に方りまして主婦なる人は宜しく鋭敏の才をもつて尤もよき處置を施さねばなりません又急性の病氣ばかりでなく世の中には不慮の創傷もあれば過失もありまして此等はイツ何時に起るものかは人爲のよく知ることは出來ませんが其場合に只周章狼狽してなげきかなしむのみで救急の手當をも知りませんければ活くべきものも遂に死に至らしむることが往々ありますサレバ此等の事に就て皆樣の御參考になるようにと思ひまして此欄を設け細大となく次號より續々掲載致すことゝしましたッレて此欄は醫學士の米山彥郎氏が擔當採筆せらるゝことでございますがマッ本誌には贅文ながら前置としてかくは記しぬ

●箴　言

世に頓死の症多し卒中風、中氣、中惡、中毒、中耶者、凍死、湯火、食傷、乾霍亂、破傷風、喉痺痰、厥失血、打撲、小兒の馬脾風等の症皆卒死す此外又五絶とて、五種の頓死あり、一には自からくびる二にはおしに打たる、三には水におぼる、四には夜厭はる、五には婦人難産、是皆暴死するの症なり常の時方書を考へ又治法を良醫にたづねてしり置くべしかねて用意なくして、俄かに所置を失ふべからず　（養生訓）



大日本婦人衛生會記事

●會　告

豫而豫告致し置候通本月及來月は炎暑中の故を以て本會の集會は休會のこと

●前號雜誌は校正疎漏誤植多く多謝する所なり本誌は嚴密に校正せし筈に候

●第二皇孫御降誕に就き左の如く會員より詠草數首投ぜられたり

●寄松祝　第二皇孫御降誕に就て　志村禮野

千代經とも變らぬ松のみとり子は
　いや高〳〵と立ち榮ふら舞

●寄竹祝　仝上　中澤平爺

梓弓や宮居のことし竹
　やかて千ひろの影をなすらむ　同人

●垣卯花

卯の花にものあたらしく見えにけり
　あれにし賤が垣根なれども

●早苗　山梨會員　中澤久野

植ろ間もとよけきふしにうたはれて
　門田のさなへ生ひすゝむらん

●茨城支會報告

七月二十日第三日曜日茨城婦人衛生支會は當日午前九時に開かれたり第一、濟生病院藥劑師長谷川稻二郎氏の流行病豫防法に付て消毒藥「デゼンフエクトール」の有功なる說第二、波多野濟生病院長の赤痢患者看護法等を講演せられたり午後より婦人協會の席と改まりて第一農學校教諭の養蠶業と婦人との關係と云ふ事を懇々演せられ終りて手藝の一端として毛糸編物茶の湯等ありて午後三時閉會せり尚八月は休會の旨を告げられたり

因に曰茨城兩婦人會々員が曾てより好文亭玄關の取拂はれたる者を再建せんとの議の成れるを聞き

て同亭を毎會無料借用の事あるを以て篤志を以て金圓を寄附し其工事中に加へられん事を請ひ去る五月中該事業委員へ金拾五圓を差出したりと云

●高崎支會報告

六月十四日午後第一時三十分より高崎中央尋常小學校に於て高崎支會第二例會を開く出席會員凡そ六十名當日非ノ口會長には缺席せられしを以て、副會長星野きよ子氏開會を告げられ、直ちに陸軍一等軍醫莊司森之助氏前回の續きなる食餌衛生といふことにつきて、講話せらる、これは前回に其總論を終りたるものなれば當日は其の各論につきて話されたり、其の大要は、蛋白質、脂肪、含水炭素繊維等が人體に及ぼす價値より、一椀の飯が如何に人體に價あるかを麥飯の身體に與ふる温量と比較し、麥飯は人により利益あること、又、味噌、鰹節等の成分より其の人體に與ふる温量、一椀の汁は一椀の飯の約三分の一に價すること、此外澤庵漬菜漬等に至る迄詳細に説き及ぼし、朝飯一度が人體に如何程の温量を與ふるかにて結ばれ、其他牛乳の成分より一合の牛乳は人體に温量を與ふること、一椀の飯に及ばざること、猶又牛乳と人乳との成分比較より豆乳の人體に及ぼす温量は牛乳の半分なるといふこと、雞卵一個は牛乳一合と温量の價値相同じけれども、代價は牛乳より安直なれば、經濟上有益なりと云ふ滑稽談にて終りたり、右講話は至て通俗的に講演せられ、大に聽衆の歡迎を得たり、次て醫學士林畊禮氏は水といふことにつきて講話せられたり先づ水の衛生上大切なることより、第一に水の特性、第二に水の効用、第三に水の無機造物なること、第四に水は流動性なれども委しく見れば種々のものより成立すること、第五に水はよきものなれども必ず又一害の伴ふものなれば、如何なる水なれば飲料に供して害なきかと云ふこと、第六に水は一日に一人が如何程要するか、第七に水は如何にして供給さるゝか、第八に水を清潔にすること、第九に水は如何なるものがよきかといふ、右の條件につきて一々實例をひかれ、

極めて平易に懇切に講話せられ、最後に化學的試驗を行はれ、第一に水の色を見ること、次に臭氣があるか否やを見ること等より猶種々の試驗に及ばれ、普通の水にて飮料に供して宜しきものにつき説明せられ、之にて極を結ばれたり、同氏は常日諸種の傳染病黴菌の圖等を始めとして、種々の判明なる圖書を持ち來られたれども、惜哉時間に迫り爲に充分の説明をもなさずして終られしは、實に聽衆の遺憾とする所なりし、午後五時二十分閉會す、



●本會入會者

○事務所申込
●長野縣長野市大門町五番地　通常會員　中島沙子
●北海道札幌苗穂監獄官舍第二十七號　通常會員　若林かめ子

○本會幹事岡田德子紹介
●本郷區丸山新町二十番地　特別會員　久保よりえ子

○芝區山田そよ子紹介
●麹町區三番町十四番地　特別會員　磯邊あや子
●牛込區北山伏町二十番地　特別會員　大澤つや子

○事務所增田紹介
●小石川區西丸町五十七番地　通常會員　內山國子

○本會副會長濱尾作子紹介
●大阪市淸水谷町東の町番外六十一　通常會員　野口良子

○本會講師横井玉子紹介
●日本橋區本材木町一丁目十五　通常會員　內田なか子

○赤坂森田のぶ子紹介
●小石川區新諏訪町廿一番地萩原方　通常會員　巖崎琴子

○本會評議員子爵松井正子紹介
●神田區猿樂町十九番地　通常會員　古谷楊子

○牛込南部靜枝子紹介
●小石川區諏訪町三十六番地　通常會員　藤澤すま子

○芝鈴木つる子紹介
●麻布區芝森元町一丁目九番地　通常會員　山下きわ子

○横濱磯部くに子紹介
●埼玉縣南埼玉郡久喜町大字久喜新十九番地　通常會員　白熊とも子

○麹町駒井政子紹介
●麹町區內幸町胃腸病院內　通常會員　針生さだ子

●高崎支會入會者

○高崎栗本つる子紹介
●高崎市新町十六番地　通常會員　吉野てい子

○高崎支會幹事土谷ひやく子紹介
●高崎市柳川町十八番地　通常會員　今村歌子

○高崎莊司駒子紹介
●高崎市龍見町九十四番地　通常會員　田中千代子

○高崎新里はる子紹介
●高崎市柳川町百四十九番地　通常會員　神保ゑつ子

○特別賛成員高崎土谷全次紹介
●高崎市新町百四番地　通常會員　飯塚さと子

弔詞

嗚呼哀哉　本會通常會員子爵夫人松平鈴子（東京）には去月十七日病死せられ又通常會員飯田とよ子（靜岡）には本月八日病死せられたるの報に接し本會は

謹みて哀悼の意を表す

* * * *

新刊寄送書紹介

共立女子職業學校教員井上香兵衛述

割烹一科教授用　惣菜三百種　菊判頁數百八十　定價四拾五錢

發賣所　東京市京橋區銀座一丁目二十二番地　大日本圖書株式會社

本書は共立女子職業學校教師井上氏の全校に於て傳授したる實習筆記の内より更に三百餘種を選み日用適切のものを集めたるものにして野菜豆腐玉子料理を多く記せしは日用の便のみならず魚類少き地方にありて講習の便を圖られしものなりといふ卷末にはいろは別便利の索引ありて日用適切の好册子なり

* * * *

●交換寄送雜誌（新刊分）

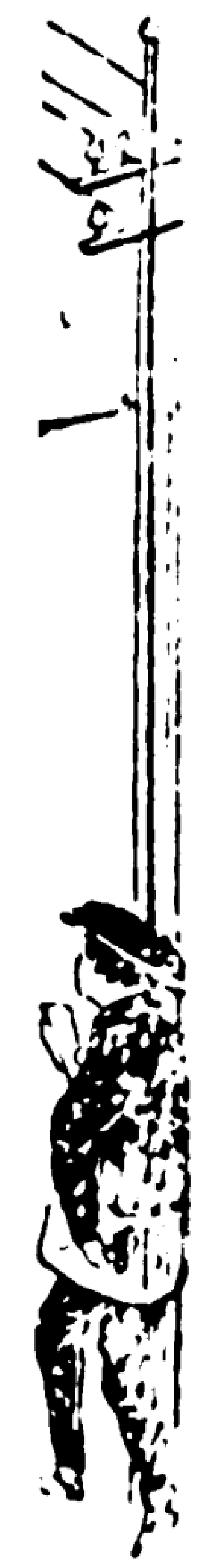
（括弧内の數字は一册代價●以下は圓以下）

大日本耳鼻咽喉科會報　本郷區丸山新町廿（定價●八〇）
婦人世界（●一〇）
大日本私立衛生雜誌　京橋宗十郎町七（●二五）
大日本婦人教育會雜誌　赤坂裏町二
日本婦人　麹町元園町二丁目（●一五）
おんな　麹町下二番町三七（●一五）
教育實驗界　本郷森川町一（●一〇）
東京教育雜誌　神田一ツ橋通廿一（●一〇）
藥學雜誌　牛込區新小川町二丁目（●三〇）
廣島衛生醫事月報　廣島猫屋町（●〇五）
婦女新聞　神田三崎町一丁目（一枚●〇二）
體育　麹町飯田町二丁目（●一〇）
越佐教育雜誌　新潟寺裏通（●一〇）
統計集誌　京橋龍山町（●二五）
國家醫學會雜誌　本郷元富士一（●二九）
日本赤十字　京橋南傳一丁目（●〇八）
愛國婦人　麹町下二番町（一枚●〇三／九）
通俗衛生　大阪東區淡路町（●一二）
婦人新報　赤坂榎坂町（●〇五／五）
藥石新報　大阪東區今橋（●〇一／五）
防長醫事　山口縣山口町（●〇六）
神樂新聞　大阪心齋橋（●〇二／五）
農商時報　東京府下淀橋（●〇五）
産婆雜誌（●一五）

大日本耳鼻咽喉科會
浪華婦人會
大日本私立衛生會
大日本婦人教育會
帝國婦人協會
大日本女學會
育成會
東京教育雜誌發行所
日本藥學會事務所
廣島衛生醫事月報社
婦女新聞社
日本體育會
越佐教育雜誌社
東京統計協會事務所
國家醫學會事務所
日本赤十字發行所
愛國婦人發行所
大阪私立衛生會事務所
婦人新報社
藥石新報社
防長醫事社
神樂新聞社
農商會
日本産婆協會

團々珍聞　京橋銀座四丁目四（・〇五）
中外藥報　東京府下中野町中野三九（・〇四三）
同方會報　京橋元數寄屋町二ノ十三山田方（・一〇）
帝國圖書館　明治三十四年度年報摘要
末世之福音　芝公園五號地二番（・〇二ノ五）
新潟縣衛生會雜誌　新潟寄居町（・〇四ノ五）
若學界　神田錦町三丁目（・〇二）
醒恩　京橋築地三（・〇二）
衛生實論　愛知縣岡崎（・〇四ノ五）
山陽新報　二葉
東京日々新聞　一葉
神經學雜誌　東京醫科大學內（・〇五）
佐賀縣農會報　佐賀縣杵島郡北方村

珍聞社
中外藥報社
同方會
帝國圖書館
末世之福音社
新潟縣衛生會
若學社
光の庭社
滋善堂
仝社
仝社
日本神經學會事務所
佐賀縣農會事務所



轉居（二ヶ月分）

△會員諸氏御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相煩候

日本橋區濱町二ノ十二番南ノ九十六號へ
麴町區中六番町二十六番地へ
福島縣福島町榮町二十四へ
日本橋區檜物町廿五へ
鹿兒島縣加治木反土川上チカ內へ
神田區臺所町二番地野村初殿方へ
甲府市櫻町三丁目二百五番地へ
日本橋區新材木町十四番地松下岩雄方へ
兵庫縣秩父郡伊佐村へ
芝區白金三光町四十五番地へ
千葉縣佐倉町鏑木町へ
秋田縣平鹿郡增田町百四十九番地へ
台灣阿猴廳枋寮支廳內へ
台灣台北城內府門近十地調査局官舍ロ號九室へ
台灣台中寶街十地調査局宿舍第八十七號へ
芝區高輪北町三十番地へ
芝區豐岡町二へ

大八木幸子
宇數かつ子
河村冬子
松澤やす子
佐本友代子
佐野文子
山本よね子
松下つね子
小出梢子
岸美里子
水澤たか子
石山岩子
西川宇野子
岡瀬志計子
森田みつ子
金原てい子
長野故子

下谷區谷中清水町一へ
麻布區飯倉片町三十一へ
北海道札幌區北四條西一丁目二番地へ
日本橋區吳服町三十一番地へ
下谷區御徒町三丁目四十一番地へ
下谷區車坂町二番地いせや方へ
本郷區四丁目三十六番地川口きん方へ
長崎市夫婦川町二十番戸六號山口方へ
日本橋區坂本町十七番地鈴木啟方へ
甲府市泉町島田屋內へ
長野縣南佐久郡中込村櫪現堂丸佐製糸社內へ
高知縣土佐郡小高坂村百七十一番屋敷へ
北海道室蘭港海岸町㊐支店へ
四谷區傳馬町一丁目五十番地へ
台灣台北鐵道部官舍乙ノ二へ阿部收
奈良縣赤十社支部へ
麻布區本村町六十七番地鈴木寬介方へ酒井收
台灣淡水郵便電信局宿舍へ
靜岡縣富士郡大宮町へ
函館會所町廿番地へ
廣島市大手町五丁目四田病院內へ
牛込區砂土原町三丁目十七番地山本方へ
長野縣南佐久郡野澤町へ
牛込區市ヶ谷藥王寺前町八十三番地へ
麴町區飯田町三ノ十五へ
牛込區納戶町二十六へ
相州鎌倉坂の下星の井へ
羽後國酒田港出町へ
島根縣鹿足郡津和野町へ
北海道札幌區大通西五丁目八番地南側へ
埼玉縣女子師範學校內へ



犬養かつ子
服部鎮子
清水うめ子
天田つる子
宮木いく子
深谷きん子
小林さだ子
千布部代子
瀨田いわ子
山田茂樹子
東長安喬子
吉松鶴衛ッ
能子なか子
原部繁子
張敬子
武田船野
鈴木錦子
足達くに子
淵岡千代子
渡邊夏子
林くま子
志岐久子
岡村まつ子
大塚みいはは
原つ子
高山さき子
松波好子
宮坂みよ子
竹崎那子
根片八正子
鳥沼繁子

東京帝國大學醫科大學附屬醫院案内

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町に[illegible]診察日及診察時間[illegible]擔當[illegible]の[illegible]は午前九時[illegible]同醫院[illegible]所へ名刺[illegible]

内科（初診）初めて診察を受けに行く者は[illegible]外來患者[illegible]

三浦教授　水金　午前九時より

入澤教授　火土　仝

橋本教授　月木　仝

助教　[illegible]

再來（二週間以上診察を受けに往くもの）火木土仝

助手

外科（新來）

ドクトルスクリバ　水金　午前[illegible]

近藤教授　火木土　午前[illegible]

再來助手　月水金　午後[illegible]

眼科（新來）河本教授　月火水木金土　午前八時より

再來助手　[illegible]

耳鼻咽喉科　[illegible]

婦人科　[illegible]

但外科、婦人科、[illegible]

第一號[illegible]外科の[illegible]診察[illegible]左の如し

内科　青山教授　火水

[illegible]

小兒科　[illegible]

皮膚科　[illegible]

精神科　[illegible]

一、[illegible]入院料[illegible]

一等　一日金[illegible]

一等　一日金[illegible]

二等[illegible]

但特別[illegible]に附添看護婦を使[illegible]は別に[illegible]

一、東京市内一般[illegible]居住の[illegible]貧困者は[illegible]

東京市内に於て[illegible]

[illegible]

院を許す

東京本郷[illegible]

東京[illegible]大學醫科大學附屬醫院

[illegible]

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條 開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隨して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をなして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條 本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せしむるべし●第五條 會員種類會員を分ちて特別、通常、終身の三種とす終身會員は一時に金十五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以下通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるとす●第六條 男子にして本支會の趣旨に賛成する者は之を賛成員とす其の會費は本支會員に全じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條 本支會員は本部にて每月發刊の雜誌を無料にて受くることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知するへし。死亡等は親戚知人より通知せらるへし●第九條 本支會に左の役員を設く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條 役員は任期滿一ヶ年とし每年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條 本支會長 本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるべし)●第十二條 集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外每月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月滿官の日を以て之を開く會要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●第十三條 例會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演說又は之に關したる實驗等をもなし本支會員に聽講せしむ但し會員は知人宗族等を誘引して來會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●第十四條 講演の際は男子の傍聽を禁ず但し賛成員若くは會員の緣故ある男子は此限りに非ず●第十五條 本支會の都合により臨時謝絕することあるべし●第十六條 本支會所有金は本支會の名を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條 本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條 總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條 會員中若し本會に障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事もあるべし●第二十條 本部に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條 本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の賛成により總會の意見を經るに非ざれば改に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に準し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を啓發せしめ隨て社會全般の幸福を増進せしむるを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に於て衛生其の他の知識を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 當支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員若干名●第八條 役員は役員中より公撰し會長副會長は役員中より互選し又幹事評議員は會員中より會長之を指名す但役員の任期は一年とし再撰するを得●第九條 本會は特別賛成員を[illegible]と●第十條 [illegible]は每月一回講話會を開き每年一回總會を開く[illegible]總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族は講話に篤志賛成員は總會に傍列することを得但時宜により男子の傍列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會役の外別に支會費を要せず支會限りの會員は會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條 支會所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くべし●第十五條 [illegible]外より金員物品の寄附ありたる時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品は[illegible]に使用することあるべし●第十七條 會員は服裝其他を質素にし[illegible]勵行すべし●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



◎通常會員章
第三號　メッキ製拾五錢、送費六錢
第二號　正銀製五拾錢、送費六錢



◎終身及特別會員章
第一號　壹圓、送費九錢

◎入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと◎東京府下に限り每月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也
但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに御郵送可致候也◎追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす◎會費は郵便小爲替にて本會事務所在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし◎會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし◎移居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

廣告料　一行十錢　一頁參圓　本誌一部定價十五錢

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地　戸上義章

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可
明治三十五年八月二十日發行及印刷（毎月一回十五日發行）
[illegible]人[illegible]
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷